

千葉大学工学同窓会々報 50

2023



工学部7号棟前に新講義棟建設中

総合工学科

- 建築学コース
- 機械工学コース
- 情報工学コース

- 都市環境システムコース
- 医工学コース
- 物質科学コース

- デザインコース
- 電気電子工学コース
- 共生応用化学コース



※工学部改組に伴い、学科からコース制となりました。各部会とコースの対応についてはp.28をご参照ください。

千葉大学工学同窓会

ホームページ <https://chiba-kougaku-dosokai.jp/>



会長挨拶

工学同窓会会長 原 正樹 MASAKI HARA

卒業年／昭和52年（1977年） 千葉大学工学部工業意匠科卒業
昭和54年（1979年） 千葉大学大学院工学研究科修士課程修了

このたび、工学同窓会会長を拝命いたしました原と申します。緊張感を持って役割を全うできるようつとめますのでよろしくお願い申し上げます。

はじめに、工学同窓会活動に対する皆様方の日頃のご支援に感謝申し上げます。工学同窓会の活動は幹事長の佐藤公信教授を中心に、先生方の協力を得て進めています。懸案の100周年記念事業については、感染症の影響で予定の2021年から実行できていませんが、まずは、100年史編集WGの先生方を中心に100年史の発行を目指しております。ご理解をいただきたく存じます。

簡単に自己紹介をいたしますと、1979年に工学研究科を修了し、三菱電機株式会社に入社、工業デザイン分野を中心に活動して来ました。デザイン研究所は単に製品の形をデザインするだけでなく、使いやすさ、わかりやすさのデザイン、情報のデザインや生産現場における働きやすさのデザインなど様々な角度からのデザインを担当しています。2000年代に入り、ユニバーサルデザイン（できるだけ多くの人々に等しく満足度の高い製品と生活環境を提供する）について、国内の複数の同業種/異業種の企業とも連携しながら推進してきました。その中で旗振り役の1人として活動できたのではないかと自負しております。2011年に広告代理店に移り、広告業のデジタル化にも取り組みました。2018年からは私立大学の非常勤講師としてオリジナリティある発想のしかた、アイデアをロジカルにまとめる方法、周囲を巻き込む共創などを企業内デザイン部門での経験をもとに教えてきました。

さて、インバウンドの観光需要は回復の傾向ですが、国内製造業においては海外調達のコストアップなど厳しい状況と思います。私は現役を引退して久しいので、あくまで一消費者としての感覚ですが、車や家電品の購入から入手までに数ヶ月かかっている現状をみますと、また、それが海外の半導体や原材料の調達などサプライチェーンに起因していることを考えますと、グローバルレベルでの解決すべき課題はたくさんあるのではないのでしょうか。

一方、製造業においても、広告業においてもデジタル化の波は浸透してきていて、新たな視点での知恵を発揮する必要があるのではないのでしょうか。また、今年の異常気象を見るとエネルギー問題や温室効果ガスの削減はじめ持続可能性への配慮など、地球規模での課題が山積しているように思います。

千葉大学工学部は私の在学中もそうでしたが、非常にコ

ニークなコース（学科）が集まっていると思います。私が卒業したデザインコース（当時工業意匠学科）をはじめとして文化や芸術に通じるいくつかのコースが右脳系アプローチを、また、工学部としての左脳系アプローチは得意とするところであり、このクリエイティブとテクノロジーとの融合はこれからの新しいアプローチとして可能性を含んでいると思います。この多様性こそが千葉大学の真価であり、改めて工学部の基本理念を読んでもこれにも通じるのではないかと思います。

退職後、趣味で金継ぎを始めました。金継ぎは壊れた陶器や磁器を本漆で接着し、その上から金や銀で装飾する日本の伝統技法です。それを全くの素人がやろうとしたことは実にチャレンジブルでした。初めは金継ぎ教室で基本的なことを学びました。接着剤を作って接合するだけのシンプルな作業ですが、漆の種類もいろいろあり、金継ぎの解説書やWebサイトをみてもわからないことばかりでした。京都で、老舗の漆屋さんに買い物で立ち寄った際、立ち話で職人の方からうかがった話に「そういうことなんだ」とはじめて納得できました。これが匠の技、伝承の知識だと。私は趣味程度なので、ちょっと作業をしたあと漆の乾燥を何日も待つなど、ゆったりとした時間の経過を楽しんでいます。壊れた器も装飾して芸術にしてしまう日本人の感性に改めて感動しています。

最後になりますが、6月の総会では同窓会の会計の収入減が指摘されました。収入は新たに会員になる卒業生の入会金（665万円）や同窓生の年会費（159万円）などによって支えられていますが、同窓生の年会費納入目標210万円（2022年）に対して決算額が下まわり十分に集めることができませんでした。一方、支出は、会報編集発行やホームページ更新、学生支援（フォーミュラプロジェクト、ロボコン、卒業設計展、CUAD、意匠展）などです。支出についてはかなり切り詰めてきましたが、口座振込金に受取人手数料があらたに発生（2022年）するなど、支出についても再考が必要になるかもしれません。

このような状況の中、2023年度は支出の最適化を図りながら、どのように収入を増やすかを検討したいと考えています。できるだけ多くの同窓会員の方が、年会費を納入しやすい環境作りに取り組んでいきたいと思っています。

まとまりのない文章となってしまいましたが、最後に工学同窓会活動への皆様方の一層のご支援とご協力をお願いいたします。

■経歴

1977年3月	千葉大学工学部工業意匠科卒業
1979年3月	千葉大学大学院工学研究科修士課程修了
1979年4月	三菱電機株式会社 デザイン研究所 入社
2007年4月	同 デザイン研究所 所長
2011年4月	株式会社 アイブラネット 取締役、2016年 専務取締役
2018年4月	東京電機大学 大学院未来科学研究科情報メディア学専攻 非常勤講師



ご挨拶

千葉大学工学部長 伊藤 智義 TOMOYOSHI ITO

昭和37年 北海道札幌市生まれ
平成3年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了
平成4年 同 博士課程中退
平成6年 博士(学術)(東京大学)

今年度より佐藤之彦先生の後任として工学部長を務めております伊藤智義です。まだ不慣れな点も多いですが、教職員の皆様を支えられて、工学部の運営にあたっております。

初めてのご挨拶となりますので、自己紹介をいたします。私は大学院のときには理論天文学の研究室に所属していました。そのときのテーマが「重力多体問題専用計算機の研究開発」で、天文学専用のコンピュータを開発しました。そのテーマが縁となりまして、平成4年に群馬大学工学部電気電子工学科の助手に採用されました。平成6年に助教授となり、平成11年に千葉大学工学部電子機械工学科(当時)に異動してきました。そのときの工学部長は同じ電子機械工学科所属の山口正恒先生(その後、電気電子工学科)で、10月の異動で少々慌ただしく、工学部長室の前で個別に辞令を受け取りました。以来、25年にわたって千葉大学工学部にお世話になっております。

理学系から工学系に移ったときに感じたことは、理学が自然の探求、つまりは解を求める学問であるのに対して、工学は人間の想像力に基づく学問であるということです。「こんなものがあつたらいいな」と思ったモノが次々に創造されてきています。人間の想像力は豊かですので、その分、多くの分野があり、改組の際の流動性も高いように思います。

皆様もご存じの通り、本当にいろいろな改組がありました。特に平成16年度のメディカルシステム工学科の新設では、当時の工学部長を務めておられた宮崎清先生(都市環境システム学科)から立ち上げの教授として任命され、人事やカリキュラム作成等、様々な業務に携わりました。設立時の学科長は北村彰英先生(共生応用化学科:後に理事、工学部長)が兼任という形で務められておられました。私は2年間、メディカルシステム工学科に在籍し、再び電子機械工学科に戻りました。その後、電気電子工学科を経て、現在は電気電子工学コース担当教員となっています。

工学部の仕事としては、平成23年度から3年間、北村先生が工学部長のときに副学部長を務めました。東日本大震災直後で、大学教員及び研究者として、そのあり方について考えさせられる時期でした。全学としては、松元亮治先生(理学部)、関実先生(共生応用化学科)が研究担当理事をされていたときに、6年間、副理事の職務に就きました。大学が自分自身の強みや弱みを分析するURA(ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレータ)組織を立ち上げる時期に当たり、URA室長を務めました。

工学部執行部や全学執行部での経験は現職にも大変有用だと感じています。これまでの知見や関係者とのつながりを活かし、工学部に少しでも還元して貢献できればと考えております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

改組の大きな流れとして、工学部総合工学科情報工学コースを発展的に解消した「情報・データサイエンス学部」の新設が正式に認められました。来年4月から1期生の受け入れが始まります。千葉大学としては11番目の学部となります。同時に博士後期課程を対象とした「情報・データサイエンス学府」も新設されます。博士前期課程は年次進行で、4年後に新学府に移行予定です。この10年でAIという言葉が一般社会にも浸透し、様々なデータをデジタルとして扱う流れはコロナ禍で加速しました。現在は国策としてDX化が求められています。DXを支え、先導していくためには工学の力が必須です。新学部・新学府は工学部・融合理工学府とは別の部局となりますが、今後も協力しながら、より良い方向をめざしていきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、以前の生活が戻ってきました。その中で、先日、今年春の瑞宝中綬章を受勲されました小熊幸一先生(共生応用化学科)、山口正恒先生が相次いで工学部にお越し下さいました。立派な賞状等を拝見して、私自身も大変誇らしく思いました。また、今年9月には4年ぶりに松韻会が開かれます。皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。さらには、2年前に100周年を迎えた工学部の記念事業も、100周年当時の工学部長であった佐藤之彦先生を中心に進捗しています。工学同窓会のご協力を得て、「工学部100年史」の発行や記念講演会、記念祝賀会の開催などを企画、準備中です。

オンライン、対面、ハイブリッド等、コミュニケーションの手段は多様化しています。様々な形で卒業生の皆様の参画を得た新しい教育、研究などの機会も広がるのではないかと期待しております。今後とも、工学同窓会の皆様のご理解、ご支援を賜りたく、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

建築学コース

■ 建築学コースの近況

2023年度の建築学コースでは、学部生303名（1年生68名、2年生68名、3年生84名、4年生83名）、大学院生124名（博士前期課程1年生50名、2年生55名、博士後期課程19名）が所属しています。また教員は20名の構成となっております。学部・大学院共に原則対面授業が復活しており、キャンパス全体はもちろん、建築学コースでは製図室においても、コロナ以前の賑やかさをとり戻してきております。その一方で、オンラインシステムを活用した講義も状況に応じて設置されており、メリットを生かした授業運営を行っております。

■ 近年の設計科目の紹介

建築学コースにおける重要科目である設計科目は、例年行われている内容もありますが、コロナ禍による建築・都市環境を取りまく状況の変化や、近年指摘されている地域社会の問題点などを取り込み、課題内容が少しずつ変化してきていますので、ここでご紹介いたします。

現在、建築学コースで開講されている設計科目は以下の通りです。

図学演習	1年後期	必修科目
建築デザイン基礎	2年前期前半	
建築設計Ⅰ	2年前期後半	
建築設計Ⅱ	2年後期前半	
建築設計Ⅲ	2年後期後半	
建築設計Ⅳ	3年前期前半	
建築設計Ⅴ	3年前期後半	
建築設計Ⅵ	3年後期前半	選択科目
建築設計Ⅶ	3年後期後半	
建築設計Ⅷ	4年前期	

昨年度の各科目の課題内容や成果について下記に示します。

・建築デザイン基礎【旧大塚邸住宅の実測・再現】

コロナ禍により、旧大塚邸の実測調査が困難となり、従来のグループ作業から個人作業に変更した。同時に、軸組3Dモデルの活用や、わかりやすい模型写真の撮影方法、アクソメにおける多様な表現方法などを紹介することで、実測できない点を補うだけでなく、作品の質や精度が向上し、理解度が深まっている。

・建築設計Ⅰ【アトリエのある家】

住宅とアトリエという異なる用途を組み合わせ、住宅設計に関する諸規制（用途地域、容積率、建蔽率、斜線規制、日影規制等といった基本的な法規制）も含めて設計する。

・建築設計Ⅱ【都市生活を豊かにするスモール・アーバン・コンプレックス】

千葉大学の正門と京成みどり台駅を繋ぐ学園通り沿いは近年、ZOZO本社ビル・ZOZOの広場、西千葉工作室などの整備が進んでいる。人々が集い、楽しんで生活できるスペースを創出するため、カフェ・コワーキングスペース・シェアハウスが混在するスモール・アーバン・コンプレックスを設計する。

・建築設計Ⅲ【集合住宅・裏千葉に集まって住もう】

「裏千葉」と呼ばれる千葉駅裏側から湾岸道路の間を対象地域とし、新旧の住宅や小規模飲食店、大規模商業施設、駐車場が混在する中で、今後のまちづくりを想定して住人像や生活を想像し、10～14戸程度の住戸と、住戸を繋ぐコモンスペースを有する集合住宅を設計する。

・建築設計Ⅳ【小学校のリノベーション・コンバージョン+ランドスケープ】

個人の母校である小学校について、地域の特徴や関係する芸術家や文化財を生かし、美術館・博物館にコンバージョンする。新築ではなく、現状の50%以上の躯体を活用した設計ということで、構造系教員や設備系教員も協力し、現実的な建築物になるように設計する。同時に、敷地・周辺環境のリニューアルを図るため、建築だけでなくランドスケープも一体として設計する。

・建築設計Ⅴ【小学校】

これまでも取り上げられてきた小学校を対象とした施設デザインの課題であるが、近年は地域開放施設などの地域コミュニティの拠点としての存在、東日本大震災を契機としての災害拠点としての存在、コロナ禍による学校での学習方法の変化（リモート・非接触・換気）や教育の個別化・多様化を考慮して、スペースやゾーニングを設計する。

・建築設計Ⅵ・Ⅶ【スタジオ課題】

10人程度のグループに分かれて各教員の提示する課題内容について取り組む。課題内容は「限られたスペース内での住宅設計」、「建築とランドスケープデザインを踏まえたまちづくり」、「国際的な住宅とパブリックセンターの設計」、「アフターコロナを考えたサステナブル建築」などがあり、墨田キャンパスにおける大学院講義と合同スタジオ、海外大学と合同で行う国際

スタジオ、意匠系と設備系との合同スタジオなど、より実践的で多面的な内容となっている。

・大学院スタジオ

2021年に開設された墨田サテライトキャンパスにおいて、建築学コースで新規科目を開設し、下記に示す多様なスタジオ教育が実践されている。

- A. 文花地区リデザインー大学のあるまちづくりー
- B. 町工場の世代と再生ー墨田の地域産業における職住共存の行方ー
- C. PROPOSAL for A SUPER LUXURY VILLA
- E. HOME competition 2021 in SUMIDA
- F. 墨田のものづくりとの連携による環境建築のファサードデザイン
- G. データに基づく健康都市・空間デザイン創造アプローチの実践

また、柏の葉キャンパスを活用したスタジオ（都市環境デザインスタジオ【まちをつなぐ移動空間のデザイン】）も展開されている。これは、柏の葉地区を対象とし、変化する「都市」のニーズに対応して抱えている課題を解決するだけでなく、これから発展し、より魅力的になる地域社会を現実的に設計するもので、「柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）」、東京大学、東京理科大学、筑波大学といった各大学との連携・共催で実施し、市民、周辺自治体、関連企業との討論や公開講評会などを開催することで、より多面的かつ複合的な視点からのデザインを図っている。

■ 森田耕次名誉教授 瑞宝中綬章 叙勲



森田先生のご講演

本学名誉教授である森田耕次先生が2022年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。コロナの感染状況により、森田先生と研究室OB・OGによるお祝いの会が2023年5月20日に開催されました。お祝いの会では、本学教授の原田先生から、森田先生のこれまでの研究成果や社会的活動のご紹介があった後、森田先生のご

講演がありました。ご講演の中では研究生活の中でも特に、構造実験の重要性と楽しさについてお話されておられました。会の後半は研究室OB・OGから提供された写真を交えながら、森田先生が研究室を立ち上げた頃から退職までの森田研究室の様子や、他の構造系研究室の様子などが紹介され、多くの研究室OB・OGからのお祝いの言葉が贈られました。

■ 山梨知彦客員教授 就任

2022年10月に、山梨知彦先生（日建設計・チーフデザインオフィサー 常務執行役員）が客員教授に就任され、大学院スタジオFをご担当されています。

■ 学生・教員の受賞と活躍(学生の学年は受賞時)

- ・2023年度日本建築学会優秀卒業論文賞
鈴木 みなみ（平島・戸塚研、修士1年）
 - ・2022年度日本建築学会大会 若手優秀発表賞
中山 征人（平島・戸塚研、修士1年） 防火部門
福谷 慈乃（松浦研、修士2年） 都市計画部門
荒川 望実（宗方研、修士1年） 環境工学部門
 - ・2022年度日本建築学会大会 建築デザイン発表会
「脱炭素社会に向けた建築やまちのデザイン」優秀発表賞
福谷 慈乃・齋藤 大地・松浦 健治郎
 - ・2022年度 第93回 日本建築学会関東支部研究発表会
若手優秀研究報告賞
菊地 毅之（平島・戸塚研、博士3年）
若手優秀研究報告賞 および 優秀研究報告集
小杉 俊（平島・戸塚研、学部4年）
優秀研究報告集
川井 悠雅（平島・戸塚研、修士2年）
 - ・The 66th SWST International Convention 「Student Oral Presentation Award」 3rd Place
鈴木 みなみ（平島・戸塚研、修士1年）
- 伊藤 潤一 助教
- ・こども環境学会学会賞（デザイン奨励賞）
 - ・東京建築士会これからの建築士賞
 - ・千葉市建築文化賞 優秀賞
- 宗方 淳 教授
- 日本建築学会論文集 査読功労者表彰（第1回）
- 松浦健治郎 准教授
- 松浦准教授が監訳を担当された『ウォークブルシティ入門:10のステップでつくる歩きたくなるまちなか』（学芸出版社）が2022年9月に刊行されました。

都市環境システムコース

■ 都市環境システムコースだより

学部コース長(学科長)(教授) 丸山 喜久

卒業生の皆様、こんにちは。2023年度の都市工学コース/都市環境システムコースの学部コース長を務めております。卒業生の皆様には、2年前にも当コースの近況を報告させていただく機会がありましたが、今回で2年ぶり3度目のご挨拶となります。ここまで頻繁に順番が回ってくると、夏の甲子園を目指す高校球児であれば、前途洋々な新興の強豪校としての躍進が強く期待されるどころかと思えます。しかし、今回の私の役割としては、もう書きたいことも見当たらず、なかなか筆が進まない、じゃなくて、タイピングが進まない状況に非常に頭を悩ませているところです。

都市環境システムコースが都市工学コースへ改称し、今年が2年目となります。現在は移行期にありますので、学部1～2年生は都市工学コース、3～4年生は都市環境システムコースに所属しています。また、現在の学部3年生のコース名称は都市環境システムですが、カリキュラムは都市工学コースと同様のものになっています。このように、コース名称と実際のカリキュラムの適用年度に1年の時間差が生じている状況ではありますが、都市工学コースのカリキュラムとしては来年度に完成年度を迎えることとなります。これまでの4領域体制で提供されてきた学際的なカリキュラムを大幅に見直し、水理学、測量学、都市経済など都市工学・土木工学の関連科目を新たに提供しております。これらの新設科目の受講者数も多く、学生の興味・関

心も高いものと考えております。今後も提供科目は適宜見直し、都市工学を訴求する基幹コースにふさわしいカリキュラムの完成を目指していきます。都市工学コースの教員構成やカリキュラムの詳細に関しては、ぜひ新しくなった都市工学コースのHP (<https://dou.tu.chiba-u.ac.jp/>) をご覧いただければ幸いです。

この1年間の教員の異動を報告いたします。2023年3月をもって岡野創教授が定年退職されました。岡野先生は2016年4月に着任され、7年間当コースの教育研究、主に建築物の信頼性設計や耐震構造解析等にご尽力されました。また、2023年4月に有賀敏典准教授が国立環境研究所から着任されました。有賀先生は交通計画がご専門で、都市交通計画、交通行動分析、人口分布計画、土地利用計画、脱炭素まちづくりの研究に取り組んでおられます。

また、非常に悲しいお知らせとなりますが、当学科・コースで長きにわたり教育研究にご尽力された小林秀樹名誉教授が2022年10月11日に逝去されました(享年67歳)。小林先生はコース運営に当たり常に学生の視点に立ったご意見をお持ちで、当コースの礎を築いていただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

最後となりましたが、卒業生の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。また、都市環境システムコース、都市工学コースへのご指導・ご支援を引き続き賜りますよう、教員を代表してお願い申し上げます。

(まるやま よしひさ)

■ 学生の受賞(2022.8～2023.8)

- ・長屋和志君(岡野研M2年)が、2022年10月5日、2022年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会にて構造部分(振動)若手優秀発表賞を受賞。
- ・高野誠也君(荒井研M2年)が、2022年11月4日、国際会議The 30th Symposium on Fuzzy Artificial Intelligence Neural Networks and Computational

Intelligenceにて優秀論文賞を受賞。

- ・大塚仁弘君(森永研M1年)、坂倉康太君(森永研M1年)が、2023年1月20日、「第20回主張する『みせ』学生デザインコンペ」にて奨励賞を受賞。
- ・江澤秀弥君(劉醇一研M1年)が、2023年8月9日、化学工学会山形大会にて学生奨励賞を受賞。

■ 小林秀樹先生を偲んで

准教授 森永 良丙

都市環境システム学科その後の同コースに在籍されていた名誉教授・小林秀樹先生が、去る2022年10月11日にご闘病の末に逝去されました。享年67歳でした。それよりさかのぼること2020年秋に、小林先生が定年退職される際に最終講義を開催しました。コロナ禍で2度の延期をした定年翌年度のオンラインによる開催でしたが、それからわずか2年で永眠されました。あまりにも早すぎる訃報に、現実とは思えず一時は悲しみ以上に虚無感にさいなまれていました。

小林先生と私とは12歳、ちょうどひとまわり違いますが、小林先生の研究動向は地方にいた大学院生の私に

も大きく影響を与えていました。集合住宅計画研究に認知科学や環境心理学の知見を援用しつつ独自の論を展開した『集住のなわばり学』(彰国社1992年)をよく読んでいました。

ご専門の建築計画学・住宅系の研究活動の領域は幅広く、建築設計、住宅政策・法制度、不動産に至るまで、その実績は類を見ません。まさか職場をご一緒させていただけるとは想像もできませんでした。千葉大学でご一緒した18年は、私は小林先生のそばで研究や仕事の作法を学ぶ一学生と同じだったとって過言ではありません。

都市環境システム学科の設置後しばらくは、社会人教育に注力していました。工学部の夜間主コースでし

た。昨今、社会人のリスクリングの重要性がいわれています。たいへん多様な社会人学生が在籍していたのを思い出します。

ある時、お酒の席で小林先生から「森永君は今の専門以外で何を新しく大学で学んでみたいか？」と聞かれました。私はどう答えたか定かではないのですが、小林先生は「できるなら私は哲学を学んでみたい」と言われました。それで理解したのですが、小林先生の言説は科学哲学を血肉化したものにあふれていて、そのような志向性が背景にあったのだらうと思います。ゼミなどでの議論で展開される発言は、非常に基礎的・根底的な知識や思考をもとにしてとてもわかりやすく、かつ、示唆的でした。このようないわば知的体力を私も身につけたいのですが、一朝一夕でできるようなものでもありません。

この文章をしたためている1ヶ月ほど前の2023年8月5日に、有志による「小林秀樹先生を追悼する会」を東京都港区芝にある日本建築学会・建築会館ホールにて開催しました。東京大学同窓生、研究者、実務家、行政、小林先生が関わられたプロジェクトの方々、そして研究室OBOGなど多岐にわたる関係者が大勢お集まりくださいました。

小林先生の研究・実践をパネルや映像で振り返り、あわせて、小林先生の学生時代から、建設省建築研究所時代、そして千葉大学時代までを通してゆかりのある方々にスピーチをお願いしました。千葉大学からは出身研究室の先輩でもある名誉教授・服部岑生先生、実務プロジェクトや大学キャンパス企画業務を共にさ

れた名誉教授・上野武先生にお話をいただきました。

そこでは、優れた研究者であることはもちろんのこと、学生時代はテニスに明け暮れてとにかく強かったことや、ご家族による誰も知らない小林先生のエピソードもお聞きすることができ、あらゆる側面から故人を偲ぶとても良い機会となりました。関わってくださった方々に改めて御礼申し上げます。

小林研究室のモットーは「一人一人の生活から建築・都市を考える」です。追悼する会で久しぶりに会った研究室OBOGの皆は、それぞれの道で精一杯仕事をしているようでした。おそらくこのモットーの素晴らしさと難しさを肌で感じていることでしょう。それでも、残された者は小林先生の遺志を継いで少しでも前進していかなければなりません。私も含めて。

(もりなが りょうへい)



小林秀樹先生を追悼する会の様子

■ 新任の先生ご紹介

有賀 敏典 准教授

2023年4月1日付で都市工学コースの准教授を拝命しました。京都大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻修士・博士課程修了、(国研) 国立環境研究所で13年の勤務(途中1年間テネシー大学大学院地理学専攻に派遣)を経て、この度、千葉大学でお世話になることになりました。私の専門は交通計画ですが、都市工学、環境学、地理学、建築学の境界領域について、勉強・研究をしてきた経緯から、工学部の他の先生方と比べるとジェネラリストに近いかもしれません。私の研究の柱は、少子高齢化・人口減少、ライフスタイルの変化、環境問題を受け、二つあります。



一つ目の柱はマクロな視点で、中長期的に都市内の人口分布や施設立地等を誘導し、まちをコンパクトにすることで、人間が生活しやすくなるか、また、環境負荷が低減できるか定量的に評価することです。これまで、高齢の交通弱者数、運輸部門の二酸化炭素排出量等について、地理情報システム(GIS)や統計的手法を使って推計・評価してきました。

もう一つの柱はミクロな視点で、「活動交通シミュレータ」という人々の1日の代替スケジュールを生成するツールをWeb上で開発し、人々に代替スケジュールの選好を尋ねることで、活動の場所や時間、移動の交通手段等が変わった時の交通需要の変化を明らかにすることです。これまで、時差出勤を導入した場合の出発到着時刻の変化、通勤バスを導入した場合の通勤交通手段の変化、共働き世帯に子供が生まれて保育園の送迎が発生した場合の交通行動の変化等を分析してきました。

また近年では、自動運転や電気自動車等の普及、MaaSと呼ばれる交通手段横断的な情報面・料金面の統合といった技術面の発展、携帯電話位置情報によるビッグデータや各種オープンデータの普及によるデータ面の発展、シェアリングエコノミーの普及や働き方の多様化、健康志向の高まりといった社会的変化等により交通分野は変革期を迎えています。交通計画を行う上で考慮すべき内容が多岐にわたるため、様々な分野の先生方にご意見を賜りながら研究を進めていきたいと考えております。

至らぬ点も多々あるかと思いますが、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(ありが としのり)

デザインコース

■ デザインコースだより

2023年度コース長 小野 健太

卒業生の皆様、お変わりございませんでしょうか。

新型コロナもようやく収まり、大学の方もほぼ通常営業に戻りつつあります。コロナ禍においては、オンライン授業、飲食を伴う会合の制限、ソーシャルディスタンスの確保、海外渡航の制限など、大学の教育・研究活動も様々な制限を受け、学生はもちろん教員もやり場のないストレスフルな日々を約2年半過ごしてきました。

ちょうど今の4年生が、大学入学と同時にキャンパスへの立ち入りが制限された学年で、折角無事晴れて入学できたのに、大学に行けない、友達に会えない、それどころか友達を作るきっかけも与えて貰えない、ただ毎日頼りなくつながったオンライン授業を朝から夕方まで自宅で受けるという、いま思い出しても胸が苦しくなる状況でした。そのような状況の中、教員全員が、コロナなんかでデザインの学びの機会を奪ってはいけないという強い信念の下、授業で使う教材を学生の自宅へ送ったり、できる限りのオンライン技術を駆使したりして、自宅にいても、たとえオンラインでも、大学での学びの楽しさを少しでも届けるために、日々本当に闘っていました。常勤はそれが仕事なので当たり前と言えば当たり前ですが、非常勤の先生も、それぞれのご本務も間違いなく大混乱のはずなのに、このようなどうしようもない状況だからこそ、プロのデザ

イナーとして、この問題から逃げずに明るく立ち向かうんだという心意気で授業に携わって頂き、目頭が熱くなったのを今でも思い出します。そして、今の4年生を見ると、あの熱い想いはオンラインを超えて、しっかり届けることができたんだと確信できるほどしっかり育てております。

その他、デザインコースとしての大きな出来事は、2021年4月の墨田サテライトキャンパスの開設と同時に設置されたデザイン・リサーチ・インスティテュートについてです。開設から約2年半が経ち、学生の中でも週に1、2日は、墨田キャンパスで授業を受けるというのが当たり前の日常になりつつあります。また環境デザイン研究室、デザイン文化計画研究室、総合プロジェクトが中心となり、墨田区の皆様と一緒に、墨田区の町工場から提供された素材を使って、こどもたちがあそぶ場を提供する「あそび大学プロジェクト」、墨田区の文化財を3Dスキャンし、それを3Dプリンターで再現し、普段触れることができない文化財に手で触れ理解する「文化財ユニバーサルデザインプロジェクト」などなど、様々なプロジェクトに取り組んでいます。それらの成果は来年3月8～10日（予定）の「意匠展」で展示する予定ですので、ぜひご来場いただければと思います。

教員一同、引き続きデザイン研究・教育の発展、更なるコース発展のために尽力して参りますので、倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

■ 西千葉の自然の中で過ごした34年間

久保 光徳(意匠形態学研究室)

平成元年から2023年度まで、約34年間にわたり、西千葉の自然の中で過ごさせていただきました。工学部2号館から見える（今はマンションしか見えませんが）夕暮れの富士山の美しさ、3号館の松韻会館北側の林を借景とする研究室で、慣れないウグイスの鳴き始め、真夏のセミの合唱、そして一度だけでしたが、カワセミとアオサギも一休みに来るような環境の中で、ありがたくも日々あわただしく過ごしてきました。気が付くと自分の部屋は趣味部屋のような混然としたミニ博物館になっています。あと数カ月での片づけを考えるとぞっとします。

自分が30歳の時、デザインと称されるこの不思議な領域に飛び込みました。当時は工業意匠学科です。今は意匠展と意匠形態学研究室にその「意匠」の名を残すだけになりました。その当時の教室会議は動物園の

ようで、今以上に多様なキャラクターの先生方でその小さな部屋は満たされ、なんとも不思議な空間でした。教室会議の時には毎週全く同じお蕎麦の出前を取る先生、お弁当を持参する先生など、いろいろでした。今と比較すると時間の流れ方が違ったのかもしれませんが。そこには良くも悪くも一昔（二昔かもしれません）前の大学の雰囲気があり、緊張感とともに楽しさもありました。会議中の喧嘩（意見交換とも言いますが）もありつつも、頻繁に教室会議主催の宴会もあり、温泉旅行すら一緒に楽しむ仲間でもありました。

学生との関係も熱かったように記憶しています。今は、その一人ひとりが自分をはるかに通り越して“大人”として活躍されています。眩しいような気もしますが、自分が情けないような気もします。千葉大に来た当時は今ほど年齢差が無かったのですが、しばらくするとお父さんぐらいの年になり、あっという間にお爺さんの年になっています。びっくりです。これが月日の流

れの早さなのですね。残された時間を大切にしなければとも思います。30年以上も毎年学生さんは入れ替わり、自分はそのままそこにいるという不思議な感覚に浸っていると、1年前の出来事と数十年前の出来事の区別がつかなくなります。ただ、それぞれの出来事ごとにすべてに対して真摯に向き合ってきたつもりです。心配を抱えること、怒りを抑えること、そして自分のことのように喜びや安堵を感じることを、普段では完全に忘れていた様々なことが今思い出されます。

ここまで迷いながらデザインにおける工学、特に構造や機構を中心に、ここの学生さんにとって少しでも意味のある知見や体験を提供できないものかと、定年の年の現在も試行錯誤を続けています。なんとなく手

ごたえを感じつつも、時間切れが近づいています。来年度からは、残念ながらこの心地よい松韻の林の横で授業準備を進めることはできなくなりますが、卒業生（似非ですが）の一人として、工学的視点から、今となってはすべての領域において避けて通ることができなくなった「デザインの視点」への働きかけを続けたいと思っています。

西千葉での教育と研究の生活の日々に心から感謝申し上げます。同時に、皆さまのさらなるご発展をお祈りいたします。

■「自律」と「つながり」

渡邊 慎二(デザインマネジメント研究室)

2024年3月をもちまして退職いたしますデザインマネジメント研究室の渡邊です。在職中皆様には多大なるご支援を賜り誠にありがとうございました。私は1983年に千葉大学大学院を修了、総合電機のインハウスデザイナーとして、32年間多様なデザイン活動を実践しました。2015年5月、母校にご縁をいただきデザインコースの新生デザインマネジメント研究室をスタートさせていただきました。

私の研究室を少し説明します。研究室では多くの企業や地域との実践的な共同研究を通じて、学生たちを育成しています。研究室の特徴は、学生たちの「自律」と「つながり」です。

研究室では、研究テーマや共同研究概要を調整した後、学生の担当、何を行うか、日常的な企業連携、そして毎週のゼミ活動など、実質的研究室の運営は学生が主体的に行っています。これは、私が研究室をスタートさせた時、まだ新人だった私のために当時の学生たちがスタートさせ、今も受け継がれています。「自律」すごいです。

そして「つながり」です。研究室の卒業・修了生は、博士後期課程は1名、博士前期課程修了生は42名、学部卒業生は49名、延べ91名（卒業・修了生数の重複有、現役生含む）になります。先輩が後輩を指導するなど学生間で切磋琢磨しています。修論活動も佳境に入った時期などは、私の知らないところで卒業生たちが現役生のためにサポートしているようです。卒業生含めた縦の「つながり」が特徴です。

社会では、デザインの対象や目的によって、デザイナーに要求されるスペックは異なります。そして、デザインを取り巻く世界も常に大きく変化、進化し続けています。一つの専門性にしがみついたら生きてはいけません。私は実務系教員として、学生たちと何をすべきか！常に考えてきました。しかし考え以上に学生たちの「自律」と「つながり」は財産であり、社会において大きく成長するための重要な資質だと確信しています。大多数の学生たちの進路も、総合電機をはじめIT企業、広告やコンサル系など私の専門である大規模企業のインハウスデザインです。卒業生たちの進路と活躍が、私の最大の報酬であり私の誇りです。

最後に、今後のデザインマネジメント研究室についてです。研究室は新たに企業関連の実務系教員を迎えて再開するまで、ここでいったん閉じます。研究室の卒業生たちには「自律」と「つながり」をよろしく願っています。卒業生含め皆様方に心より感謝を申し上げます。卒業生含めた未来が明るく輝き続けることを願っています。



機 械 工 学 コ ー ス

■ 機械工学コース便り

コース長 劉 浩



3年以上も続いている新型コロナ禍がようやく終焉(?)に近づいている中で、平成29年4月の改組により生まれ変わった「総合工学科機械工学コース」が7年目を迎え、教育研究の新体制が定着しました。今年の3月には、機械工学コースから5回目の大学院融合理工学府の博士前期課程の修了生と3回目の学部卒業生を送り出しました。学部生89名が卒業し、うち59名(他大学4名、進学率約70%)が本学大学院へ進学しました。また、博士前期課程65名が修了し、うち57名が就職して4名が本学大学院後期課程に進学しました。博士後期課程7名が修了し学位を取得しました。人手不足で学生に有利な人材市場で苦勞が少なく就職できた学生が多いかと思われませんが、本学の卒業生の、これまでのご活躍や社会への貢献が大いに評価されたことを再認識しました。改めて機械工学が産業界や科学技術の研究開発を支える基幹学科であることを実感しています。

昨年度からは、運営費交付金が大幅に削減されて大学運営がこれまで以上に資金難の状況に陥っており、大学の教育研究活動が困難な局面に立っています。コースとしては、近年定年退職された先生の空きポストをなかなか補充できない状況が続いている中、現教員が科研費や外部資金の獲得により一層の努力が強いられ、懸命に教育研究活動を行なっています。今年の3月末に長年にわたり本学にご貢献いただいた森田昇教授がご定年となりました。一方、昨年10月に並木明夫先生が教授に昇格され、コースとして今後ロボット工学分野において更なる教育研究活動が期待されます。また今年の4月に材料工学教育研究分野に、山形遼介先生が助教として東京工業大学から着任し、革新的材料の創製を目指した先端的な材料科学研究に従事しています。これにより、現コース教員構成は、教授9名、准教授9名、助教2名、計20名となっています。このように、資金難と人手不足の状況に取り込まれている機械工学コースでは、高い志を持って学生たちの教育研究環境を提供するとともに、外部資金の獲得に奮闘しながら精力的に研究活動を遂行する力が試されています。

最近東洋学者金谷治の著書「大学と中庸」を読む機会があり、現代社会の大学の在り方に通ずる所があるように感じました。「論語」と「孟子」と合わせて「四子書」、いわゆる四書五経とされる「大学と中庸」では、「大学」は「修己治人」、即ち「己れ(教員)自身を修める(極める)」道徳観と「人(学生)を治める(育てる)」教育観からなる大学の道、「中庸」は「誠」を持って極端に走らぬ「中道」の処世術と、それぞれ現代風的に解釈できるかと思います。資金集めや論文書きに追われている日常的な現代では、universityとする大学の使命やあるべき姿については、一度立ち止まって考え直す必要があるかもしれません。

最後に同窓会の会員の皆様には、今まで以上に温かいご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。また、皆様の今後のご健勝、ご活躍を願っております。

■ 教員・学生の受賞(2022年9月～2023年8月)

- ・鈴木智准教授『学会誌論文賞』、日本ロボット学会、2022年9月7日
- ・Rong Jiabin君(博士3年・劉・中田研究室)：『Tertiary Prize』、ICBC2022、2022年9月15-18日
- ・長野尚人君(修士2年・比田井・松坂研)：『優秀講演賞』、2022年度砥粒加工学会学術講演会、2022年10月28日
- ・鐘芸文君(博士6年・森吉・窪山研)、窪山達也准教授、森吉泰生教授：『SETC 2023 High Quality Paper Award』、SAE/JSAE、2022年11月3日
- ・鐘芸文君(博士6年・森吉・窪山研)：『SETC 2023 High Quality Presentation Award』、SAE/JSAE、2022年11月3日
- ・原将太君(修士2年・劉・中田)：『Student Award』、ISABMECH2022、2022年11月18日
- ・武居研チーム1(武居研)：『千葉さとやまマラソン(フル)第2位』、特定非営利活動法人日本アウトフィットネス協会、2022年12月11日
- ・小枝大桃君(学部4年・劉・中田研)：『若手講演表彰』、第33回バイオフロンティア講演会、2022年12月18日
- ・山中幸季君(修士2年・大川研)：『SI2022優秀講演賞』、計測自動制御学会、2022年12月23日
- ・鈴木鵬正君(修士1年・鈴木研)：『SI2022優秀講演賞』、計測自動制御学会、2022年12月23日
- ・中橋和那君(修士2年・鈴木研)：『SI2022優秀講演賞』、計測自動制御学会、2022年12月23日
- ・段坂隼人君(修士2年・並木研)、並木明夫教授：『優秀講演賞』、計測自動制御学会システムインテグレーション(SI)部門講演会、2023年2月1日
- ・坂口成希君(修士1年・並木研)、並木明夫：『優秀講演賞』、計測自動制御学会システムインテグレーション(SI)部門講演会、2023年2月1日
- ・都田海人君(修士2年・比田井・松坂研)：『Best Article Award』、精密工学会、2023年3月5日
- ・江澤成毅君(修士2年・森吉・窪山研)：『2022年度AICE Award 成果表彰』、自動車用内燃機関研究組合(AICE)、2023年3月7日
- ・江澤成毅君(修士2年・森吉・窪山研)、窪山達也准教授、森吉泰生教授：『自動車技術会 関東支部2022年度 学術研究講演会 ベスト・ペーパー賞』、自動車技術会関東支部、2023年3月9日
- ・岡嶋燎平君(修士1年・森吉・窪山研)、窪山達也准教授、森吉泰生教授：『自動車技術会 関東支部2022年度 学術研究講演会 ベスト・ペーパー賞』、自動車技術会関東支部、2023年3月9日
- ・山泉凌君(博士3年・森吉・窪山研)、窪山達也准教授、森吉泰生教授：『自動車技術会 関東支部2022年度 学術研究講演会 ベスト・ペーパー賞』、自動車技術会関東支部、2023年3月9日
- ・瀬川颯君(学部4年・武居研)：『学術研究活動賞』、千葉大学、2023年3月23日
- ・都田海人君(修士2年・比田井・松坂研)：『学術研究活動賞』、千葉大学、2023年3月24日
- ・池野夏輝君(修士2年・武居研)：『日本機械学会三浦賞』、日本機械学会、2023年3月24日
- ・池野夏輝君(修士2年・武居研)：『融合理工学府長賞』、千葉大学融合理工学府、2023年3月24日
- ・李湜什君(博士3年・武居研)：『融合理工学府長賞』、千葉大学

融合理工学府、2023年3月24日

- ・中田敏是准教授：『令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞』、文部科学省、2023年4月7日
- ・川嶋大介特任助教(武居研究室)：『日本機械学会奨励賞(研究)』、日本機械学会、2023年4月20日
- ・武居昌宏教授：『功労賞』、一般社団法人 可視化情報学会、2023年5月12日
- ・武居研チーム1(武居研究室)：『第11回稲毛花のマラソン(フル駅伝の部)第4位』、特定非営利活動法人日本アウトフィットネス協会、2023年5月21日
- ・武居昌宏教授：『関東工学教育協会賞(著作賞)』、関東工学教育協会、2023年5月24日
- ・チューバック・シャヤン有君(博士1年・武居研)：『ベストポスター賞』、30th International Conference on Nuclear Engineering (ICONE30)、2023年5月21-26日
- ・山崎泰広准教授：『レビュー賞』、日本放射学会、2023年6月15日
- ・山岸雅人君(博士2年・太田研)：『Master of Flow Visualization Award』、20th International Symposium on Flow Visualization (ISFV20)、2023年7月

■ 新任教員のご挨拶

助教 山形 遼介



2023年4月1日付にて本学機械工学コース助教として着任させていただきました。専門分野は金属工学であり、主に耐熱鋼、金属間化合物といった高温環境下にて使用される材料を対象としております。材料の強度、延性、破壊といったダイナミックな現象と、原子レベルのナノからマクロスケールに

至るまでの金属組織との相関を解明することにより、材料の高機能化を目指しております。教育と研究の両面から本学に貢献できるよう精進して参ります故、皆様のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

■ 森田昇教授 最終講義

教授 比田井 洋史

令和4年度末にて森田昇教授が定年退職されました。森田先生は、学部学生時代から修士、博士、教員として本学機械工学科に在籍され、東京芝浦電気(株)(現、株)東芝、昭和58年4月～同63年3月)、富山大学(平成14年4月～同23年3月)に勤められていた時期を除き、永きにわたって千葉大学に貢献されました。

森田先生は生産加工学及び工作機械学に取り組みられました。特に、超精密加工、極微細加工、特殊加工、加工物理、ミニチュア化生産システムならびに加工表面性状の計測評価等の分野で常に先駆的な研究を行い数多くの研究業績を挙げられております。また、多くの有能な人材を産学官の幅広い分野に輩出されました。

ご退職に伴い、3月18日に最終講義が開催されました。機械工学コース精密加工学講座／加工物理学講座の同窓会(地球会)および以前在籍された富山大学工学部機械知能システム工学科生産精密加工学研究室の共催で対面／オンラインのハイブリッド開催とし、対面だけで109人の参加がありました。遠くは国外から参加いただいた方もいらっしゃ



いました。

当日は、足跡をたどることを意図して、森田先生の博士課程学生時代の先輩や富山大学、千葉大学の歴代の研究室OBによりご講演をいただきました。苦勞しながらも活発に楽しく研究されている様子が生き生きとわかり、森田先生の厳しくも温かいご指導が感じられる内容でした。

その後、森田先生から「工学部100年の歴史と研究室百年の歩み」と題して最終講義が行われました。工学部100年史の執筆に携われていたこともあり、100年前の大正10年の東京高等工藝学校の設立から歴史を紐解いた講演をいただきました。これらの中には、初代生産系研究室教授となる長谷川一郎教授から連綿とつながる研究室の資料や当時の写真など、戦前からつながる研究室の歴史と伝統を紡ぐ資料を豊富に紹介いただきました。その後、森田先生時代の研究室や研究内容の変遷についても準備されていたのですが、時間の都合であまり触れられなかったとのことです。残された内容については、研究室のOB会で第二部として講演いただけるとのことです。



その後、西千葉駅前の鮎割烹みどりにて懇親会を行いました。コロナにより久しく控えていた飲食を含めた懇親を大いに楽しみました。

研究は当然のこととして研究室内での飲み会や旅行などのイベントを楽しみ、学生同士はもちろんのこと師弟関係も含めて、厚い信頼関係と濃厚な繋がりを感じるものでした。

今後は本学名誉教授として、産学での研究経験を活かした「セレンディピティ創造科学ネットワーク」という学会活動を主宰して、楽しみながら社会貢献に取り組まれるとのことです。森田先生の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

■ 吉田嘉太郎先生を偲ぶ会のご報告

教授 比田井 洋史

会報48号にて報告したように機械工学コースOBで名誉教授の吉田嘉太郎先生は2021年9月28日に享年87歳で逝去されました。吉田先生は1957年3月に本学機械工学科を卒業され、不二越鋼材工業(株)、通産省工業技術院(いずれも当時)を経て、1984年から1999年まで本コースで教鞭を執られました。3回忌を迎えるのを機に2023年8月19日に学士会館にて偲ぶ会が開催されました。当日は猛暑の中、ご親族、薫陶を受けたOB、産学官で縁のある方が集まり、想い出話に花を咲かせました。

(写真は冊子版でご覧いただけます。)

医工学コース

■ メディカルシステム工学科/医工学コースの現状

コース長・学科長 山口 匡

平成16年度に設置された工学部メディカルシステム工学科は、平成29年度の工学部改組による総合工学科医工学コースへの組織変更を経て、今年で19年目を迎えました。昨年度は、医工学コースから49名、工学部メディカルシステム工学科から1名が学士として卒業し、融合理工学府基幹工学専攻医工学コースからは28名が博士前期課程を修了し修士（工学）が、5名が博士後期課程を修了し博士（工学）が授与されました。また、今年度は新しく41名の学部新生が医工学コースに入学しました。加えて、3年次には高等専門学校から10名の編入生が入学しました。今年度の学生を指導する年次担任教員として、1年次を折田純久教授と大塚翔助教、2年次を兪文偉教授と野村行弘准教授、3年次（兼修士1年次）を林秀樹教授と平田慎之介准教授、4年次（兼修士2年次）を中口俊哉教授と吉田憲司准教授が担当されています。本年2月には、島根大学から長野菜穂子助教がフロンティア医工学センターに着任されました。長野先生は、メディカルシステム工学科のご出身で、学部を卒業されたのち島根大

学医学部へ編入され、現役の病理医としても活動されています。長野先生の着任により、本コースは広い領域の工学者と複数分野の専門医で構成された専任教員19名の体制で、コース（学部・大学院）の教育に当たっています。

医工学コースでは、学部3年生の後期（10月開始）から研究室への仮配属を行い、4年生からの卒業研究の準備を開始します。研究推進に必要な基本的知識や関連領域の動向などについて、十分な時間を取って理解する取り組みですが、各学生の積極的な活動が卒業研究の成果に大いに反映されている状況です。多くの学生が4年生のうちに学会での成果発表を経験し、成果を論文化する例もあります。また、大学院に進学した学生のほとんどが国際会議での発表を行います。ここ数年はコロナ禍の影響で海外渡航が難しい状況でしたが、本年は7月末の時点で延べ33名の学生が海外での研究活動を実施（一部予定）しています。その多くは国際会議での発表や短期の国際交流ですが、複数名が1カ月以上におよぶ国際共同研究を行っています。年度末までには、海外渡航学生数が50名を超えることが想定されます。大学院生の各学年の定員が博士前



学部卒業式（令和5年3月23日撮影）



大学院修了式（令和5年3月24日撮影）



第20回千葉大学医工学シンポジウム（令和4年11月15日撮影）



医工学コース野球大会（令和4年11月12日撮影）

期課程で31名、博士後期課程で5名であることを鑑みると、当コースの学生の積極性と研究の充実度をご理解いただけるかと思えます。

昨年11月15日には、内外の識者を招聘して行う医工学シンポジウムが、医学部附属病院にて3年ぶりに対面開催されました。さらに、コース主催の野球大会も3年ぶりに開催され、コロナ禍前の日常を取り戻しつつあります。

千葉市との連携で実施している、小中学生を対象とした「未来の科学者育成プログラム」や一般向けの「大人が楽しむ科学教室」なども対面での開催が可能となり、中学・高校などでの出張講義やコース見学などと併せて、医工学の面白さを社会発信する活動も引き続き積極的に推進していきます。

本年度も教職員一同、医工学領域の教育・研究の発展と社会貢献に努めてまいります。皆さま一層のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

■ 新任教員自己紹介

長野 菜穂子 助教

2023年2月1日よりフロンティア医工学センター（総合工学科医工学コース）助教に着任いたしました、長野菜穂子と申します。簡単な自己紹介ですが、千葉大学メディカルシステム工学科（現千葉大学工学部総合工学科医工学コース）の卒業生で、林秀樹教授のご指導のもと、センチネルリンパ節トレーサー開発に関する研究を行いました。その後、島根大学医学部を卒業し、医師免許を取得いたしました。専門は病理学で、同じく島根大学で研鑽を積まさせていただきました。2020年に島根大学大学院医学系研究科医科学専攻を修了し、博士（医学）の学位を取得しました。2021年には病理専門医、細胞診専門医を取得しました。

この度、母校で教育や研究を行う機会をいただけたことに大変嬉しく思うと同時に感謝の気持ちでいっぱいです。至らぬ点多々あるかと存じますが、医師として、工学部卒業生として、医学と工学両面の視点から医工学の研究に尽力する所存です。今後とも、皆様方からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

電気電子工学コース

■ 電気電子工学コース便り

コース長 石谷 善博



今年度電気電子工学コースのコース長を務めております石谷です。「総合工学科電気電子工学コース」への改組後この3月をもって6年が満了し、初年度入学学生は博士前期課程を修了しました。昨年は、コロナ禍

がまだ落ち着かない中でロシアのウクライナ侵攻がおり、世界の流通、経済は大きな影響を受けています。日本の経済も低迷を続け、回復の兆しは見えません。その中でも毎年卒業生・修了生が社会へ旅立っており、不安要素が多い中での学生の努力に敬意を表すとともに、ご指導いただいた学科教員・スタッフ、事務、同窓会の皆様に感謝を申し上げます。幸い学生の就職は順調に進んでいるようです。

ここ1年の当コースの活動状況をご報告いたします。角江崇先生が准教授に昇任され、森田先生、中田先生、大矢先生とともに電気電子基礎の領域で活動を発展されることになりました。専門分野はこれまでのホログラフを基盤に光工学の実験的研究を推進されるこのことです。

コースは、3つの領域：電気システム工学、電子システム工学、情報通信工学からなっており、時代をさきがける研究を推進しております。学生は学部330名、博士前期課程113名、博士後期課程18名が在籍し（2024年4月現在）、勉学・研究に励んでおります。

コロナ禍が終息の方向に向かっており、日常生活の回復傾向に伴い昨年度から対面講義が再開し、また教員の海外出張も増えてきております。その中で、教育・研究体制の見直しの機会もありまして、現在劉先生を委員長とするコース教育委員会で教育体制の再構築を検討しております。

表彰に関して、村瀬拓登さん（指導教員：荒井幸代先生）が「ちばぎん学生ビジコン2022」にて大賞、崔琳曼さん（指導教員：劉康志先生、残間忠直先生、小岩健太先生）が計測自動制御学会よりSICE優秀学生賞、榎本陸登さん（指導教員：中田裕之先生）が日本大気電気学会発表表彰をそれぞれ受賞されました。学生の皆さんの受賞を祝福いたしますとともに、ご指導の先

生方に感謝いたします。

退職者では、工学部長を務められました山口正恆先生の瑞宝中綬章叙勲がございました。先生の叙勲にお祝い申し上げるとともに本学電気電子工学の分野からの受賞を大変光栄に存じます。

千葉大学では国際化を促進しており、教育システムの改革が一步一步進んでいます。残念ながら問題点が多く存在しますが、意識改革は進んでいるものと見受けられます。憚りながら私の研究室でも2019年以来毎年サイエンスプランを実施しており、2023年度はコロナ明けで20日間のコースで4名の学生を招聘し共同研究の基盤形成を行いました。留学生の受け入れも促進しました結果、普段の英語の使用により英語や異文化に対する障壁が下がってきたように思います。研究室の卒業生には海外勤務をされている方も多く、益々の国際的な活躍を期待できるものと存じます。

人類の豊かさが増すにつれ、世界中で不安定性が顕著になり、一方で我が国の経済力の相対的低下が顕著になっています。人類の社会システム構築の歴史からその本質を考え、わが国の教育で大変欠如していると思われるものの考え方の学習を行い、地域、国、国際各社会の中で自分たちの立ち位置を相対化して、わが国の文化の利点を再認識し、自分たちのなすべきことを考えることが重要になってきているように思えます。幸い、関連書物に私たちは恵まれております。学生の皆さんには、技術の背景にある社会についても考察を深めて人類の平和に貢献されることを願います。

■ 角江崇先生ご昇任の挨拶



令和4年10月1日付で准教授に昇任いたしました。平成24年4月に助教として着任いたしました当初は教員として、研究者としてこれからやっていけるのかどうかを不安に感じていたのを思い出します。そんな私を、電気電子工学コース（着任当時は電気電子工学科）の皆様は温かく迎え入れてくださいました。特に同じ研究室の伊藤智義先生、下馬場朋禄先生には着任当初から自由楽しく研究活動をさせていただきながら、大学教員としての振る舞い方を学ばせていただきました。

この度の昇任を契機に、令和5年4月からは森田健先生と新たな研究グループを構成しています。森田先生は「量子」の研究を精力的になされています。一方で私自身はこれまで、「光」と「情報」をキーワードに、ホログラフィを利用したイメージングやセンシング、ディスプレイに関する研究へと取り組んできました。今後はここに「量子」を取り入れようと考えています。「量子」「光」「情報」の三領域の協奏で新たな成果を生み出し、電気電子工学コース、ひいては千葉大学工学部のさらなる発展へと貢献できればと思います。それと同時に、これからの日本を担う若い優秀な人材の育成にも、よりいっそう励みたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願います。

■ 山口正恆名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました

令和5年春の叙勲で山口正恆先生（2010年3月に工学部退職）は瑞宝中綬章を授与されましたが、このことについては4月29日付けの新聞でご覧になった方も多かったと思います。コロナ禍が厳しかった2020～2022年の春、秋の叙勲において、勲章・勲記の伝達はどのように行われたか知る由もありませんが、令和5年春の勲章伝達式は5月12日午前国立劇場大劇場で行われ、午後は皇居に於いて拝謁が行われたように仄聞しています。

山口先生は昨年未頃、特に今年の立春頃から腰を始め臀部、更に下肢全体にかけて酷い痛みや痺れに襲われ、一般的に「坐骨神経痛」と呼ばれる状態で、夜は痛みのためにベッドでは寝られず、椅子に腰かけたまま居眠りをする夜も幾晩か続いたそうです。また、「坐骨神

経痛」とは全く別に、白内障手術の準備のための「(両)眼窩(がんか)脂肪ヘルニア」の手術も既に1月中旬に済ませており、担当医からのお話で、5月半ばにも本番の「白内障」の手術を受けることになっていました。このような訳で、山口先生は伝達式や皇居での拝謁には欠席される旨を申し出られました。

山口先生ご自身は伝達式に出席できない場合の勲章・勲記の伝達方法について殆どご存じなかったそうですが、6月に入って間もなく理工系総務課工学系人事労務係から以下のような連絡がありました。すなわち、山口先生の勲章・勲記については千葉大学本部が文部科学省より受領し、理工系総務課に於いてお預かりいただいていた。

その後、伊藤智義工学研究院長や杉木清彦理工系総務課長を中心とした方々のお心遣いで、6月23日に、山口先生が在任中に主として教えられた学科（1972年8月～2010年3月に電気工学科、電気電子工学科、及び電子機械工学科）を考慮して、電気電子工学コースの佐藤之彦教授（前工学研究院長）、石谷善博教授（電気電子工学コース長）、大森達也准教授が参列した席で伊藤智義工学研究院長から勲章・勲記の伝達を行っていただき、その後は互いに歓談を楽しむ場としていただくことになりました。

当日までに、山口先生の白内障の術後は順調に回復し、坐骨神経痛による痛みや痺れも整形外科でリハビリを受けるまでに回復しており、互いに、久し振りに充実した時間を過ごせました。

末筆ながら、山口先生より「お忙しい最中に今回のような学内に於ける伝達式を企画、開催いただきました伊藤智義工学研究院長や杉木清彦理工系総務課長を始め、電気電子系コースの先生方や理工系総務課工学系人事労務係の皆様は深く感謝申し上げます」とのご挨拶を賜りました旨お伝えいたします。

[IV部会編集委員]



■ 情報工学コースの近況

情報工学コース長 溝上 陽子

【コース近況】

昨年度から対面講義が徐々に再開し、卒業研究発表会も対面開催ができるようになりました。今年度は本格的に対面講義となり、ようやく大学に活気が戻ってきました。科目によってはオンライン講義を継続しており、今後は対面とオンラインを効果的に組み合わせた教育に取り組んでまいります。情報工学コースの入試では、一般選抜に加えて総合型選抜や先進科学プログラムによる飛び入学等の方式を行っており、本年度も先進科学プログラムの新入生を迎えました。引き続き、多様な学生が活発に勉学できるよう支援体制をとってまいります。

本年度4月1日より、技術職員として高橋岳之さんが着任されました。千葉大学の電気電子コースご出身であり、ご経験を生かした情報工学実験での活躍やコース業務での貢献が期待されます。

【研究活動】

対面での学会や研究活動も再開しており、昨年度から今年度にかけて国際学会等での海外出張や海外からの研究者訪問の機会が大幅に増えて来ました。今後、さらに活発な共同研究や社会連携に努めてまいります。千葉大学の学際的先端研究支援プログラムにも情報工学コース教員が研究責任者のプロジェクトが複数採択されており（衛星ビッグデータとデータサイエンスの統合による地球環境・災害予測研究の新展開（小槻峻司教授）、大規模革新的シミュレーションによる宇宙天体形成史の統一的解明（石山智明准教授）、高周波パワーエレクトロニクスが切り拓くワイヤレス給電革新（関屋大雄教授）、研究の発展が大いに期待されます。

【新学部開設に向けて】

2024年度に情報工学コースを発展的に解消し、新たに情報・データサイエンス学部が開設されます。併せて、情報・データサイエンス学府（博士後期課程）も設置されます。現在の情報工学コースの教員は、新学部・学府を担当することになります。データサイエンスの本質を理解し、社会的課題の解決に応用できる人材（実践的データサイエンティスト）、情報工学の専門性を備え、データサイエンスの実現と高度化に応用できる人材（データサイエンスおよび周辺技術の高度化を担う人材）の養成を実現すべく、新学部・学府に向けた準備を進めております。

情報工学コースWebサイト (<http://www.tj.chiba-u.jp/ie/>) には、学生の受賞やコース紹介、教員・研究紹介、入試情報などの最新情報が掲載されておりますので、ご覧いただければ幸いです。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

■ 大学院イメージング科学コースの近況報告

イメージング科学コース長 堀内 隆彦

ようやく、大学の講義にも対面授業が戻ってきました。オンライン授業が続いた3年の間に、世の中ではいわゆるAI技術が目覚ましい進展を遂げました。イメージング科学の分野でも、これまでボトムアップに積み上げられてきた様々な画像技術をAI技術が凌駕しており、大学が教育すべき内容と質について、あらためて考えさせられる時代に突入しました。それらに対応すべく、次年度より大学に「情報・データサイエンス学府/学部」が設置されることが決まり、本コースの大学院博士後期課程も、情報・データサイエンス学府として新たにスタートすることとなりました（博士前期課程については、引き続き融合理工学府において教育・研究が行われます）。学部においても、データサイエンス系専門科目として、「人間・感性」の専門科目群が新たに開設され、学部におけるイメージング科学関連の科目として、カラーサイエンス/デジタル画像処理/視覚情報処理/コンピュータグラフィックス/生体情報工学/感覚・知覚測定法などの授業科目を開講する予定となっています。

墨田キャンパスのデザイン・リサーチ・インスティテュート (DRi) において開講しているコレクティブデザインに関する講義と演習では、従来のプロジェクトデザインに関する講義と演習に加えて、新たにバーチャル・リアリティに関する演習科目も開講し、本コースの学生は建築学、デザイン科学の学生と協力して、それらのプロジェクトに参加しました。

研究面では、津村徳道准教授が中心となって墨田区と進めている中小印刷業の技術継承をAIで支援するプロジェクトがプレスリリースされるなど、各教員は民間企業と連携して様々な社会実装を進めています。加えて、本コースの研究室に所属する4年生の卒業研究合同中間発表会など、研究室の垣根を越えた共同研究や学生交流も活発に行われています。

国際交流については、学生や教員の派遣や受入れも本格的に再開しました（詳細は本号の別記事を参照のこと）。画像・情報系の国際学生交流プログラムであるアジア学生ワークショップ (ASW) では、学生の派遣と受入れが再開しています。昨年採択された日本学術振興会の研究拠点形成事業B「グローバル感性イメージング科学技術のアジア拠点形成 (BAGIS)」(代表：溝上陽子教授) では、今年度は関連セッションが2つの国際会議で予定されています。加えて、2019年度からノルウェーが主体国となって5ヶ国間で実施している「International Partnership for Excellent Education and Research Project 'MANER' - Material Appearance Network for Education and Research (日本側代表：堀

内隆彦教授)”（修士課程の学生を対象とした質感に関する教育研究プロジェクト）のトレーニングスクールを、4月に千葉大で4日間にわたって主催するなど、国際交流が活発に行われています。

以上のように、本コースでは、教員一同、教育・研究の発展に一層努めております。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

※コースに関する最新情報は、以下のwebで逐次紹介しています。

コースweb：<https://www.tj.chiba-u.jp/imgsci/>

■ 国際学生交流プログラム・

アジア学生インフォメーション& イメージサイエンスワークショップ(ASW)の紹介

溝上 陽子

アジア学生インフォメーション&イメージサイエンスワークショップ(Asia Student Workshop on Information and Image Science)は、工学部の画像系・情報系を中心に、アジア各国の大学と行っている短期交換留学プログラムです。学部生を中心とした学科間交流(Department to Department: D2D)と、大学院生を中心とした研究室間交流(Laboratory to Laboratory: L2L)プログラムにより構成されています。D2D派遣プログラムでは、各国の交流大学での講義・実験に参加するほか、現地での企業見学、伝統工芸、伝統料理等の異文化体験を積みまます。また、これらの活動を現地学生と共同で行うことで、国を超えた絆を結び、国際人としての一歩を踏み出してもらうことを目的としています。同様に、千葉大学に交流校の学生を受け入れてD2Dのワークショップを開催しています。L2Lプログラムでは、さらに専門的な研究交流および共同研究の推進を図っています。本プログラムは、2010年にタイのチュラロンコン大学と千葉大学との交流から始まり、その後着々と交流を拡大し、現在は8ヶ国・地域(タイ、マレーシア、ベトナム、カンボジア、トルコ、韓国、中国、台湾)、24校が参画する規模となりました。交流分野も、化学系、メディア印刷、芸術科学、電気電子工学、情報工学等、多岐にわたっています。

2019年度末以降は対面開催ができない状態が続いておりましたが、2020~2022年度には春休みにオンラインで1~2週間のワークショップを開催し、活動を継続してきました。2022年の夏には、ラジャマンガラ大学タンヤブリ校(RMUTT)等へのL2L派遣を部分的に再開し、2023年夏期には20名程度のD2DとL2L派遣を予定しています。また、D2D受入プログラムも11月に開催予定です。対面交流がしばらく途絶えていたため運営体制も再構築する形となり試行錯誤の連続ですが、充実したプログラムとなるようスタッフ一同取り組んでいます。

本プログラムは、日本学生支援機構(JASSO)の短期

派遣・短期受入プログラムの支援、千葉大学国際交流事業・海外との組織的教育研究交流支援プログラム等の支援を受けながら実施してきました。また、2022~2024年度の期間でJSPS研究拠点形成事業Bに研究交流課題「グローバル感性イメージング科学技術のアジア拠点形成」が採択されました。この事業では、千葉大学が日本側拠点機関となり筑波大、東京工芸大、大分高専と協力して、タイ、トルコ、マレーシア、ベトナム、カンボジア、フィリピン、インドネシアとの研究交流を推進しております(<https://bagis-web.github.io/index.html>)。ASWも研究拠点形成事業と連携して活性化していく予定です。

今後も継続してアジア地域との交流を深めていく予定ですので、同窓会のみなさまにもぜひご支援いただければ幸いです。

※ASW活動の様子は、以下のwebで紹介しています。

ASW web: https://www.tp.chiba-u.jp/asw/html/html_jp/



オンラインASWの様子



ASW2022 RMUTT派遣の様子



ASW2022 RMUTT写真実習の様子



ASW2022 RMUTT遺跡見学の様子

物質科学コース

■物質科学コースだより

コース長 宮前 孝行



今年度から新型コロナウイルスへの対応が変わり、講義や実験も「対面」により実施されることになりました。ただし全てが元に戻ったわけではなく、オンラインを含め、必要に応じて柔軟に教育活動を行うことができるようになったのは、この間の

経験から学ぶ点も多かったと思います。一方で、ニュースなどでも取り上げられておりますように、昨今の電気代の高騰や物価上昇、急激な円安により、オンライン図書の一部購入廃止や運営費交付金の削減など、大学としてはこれまでとはまた別の側面で色々と知恵を絞らないといけない場面にも直面してきています。

昨年度は3年生に対し、「画像産業汎論（2023年度からは物質科学産業汎論に名称変更）」で、千葉大学卒業生等によるオムニバス形式の授業が対面で実施されました。選択科目ではありますが受講者も多く、企業などで働く方々の経験を直接聞き、自身の今後を考える上で貴重な時間となっています。また、人数を限定しながらではありますが、企業の方々にご協力いただき、3年生向けの企業見学を実施いたしました。コロナ禍ということもあり、企業について得られる情報がオンライン偏重になる中で、実際の職場に訪問し働いている方々の話を聞く経験は学生にとっても引率した教員にとっても有益な場となり、学生側からも企業の方々に対して活発に質問が出ておりました。恒例となりました2年生の遠足では、少人数ずつに分かれて、ゴールであった千葉ポートタワーを目指して歩いていきました。2023年4月の新入生向けには、日帰りつくばの研究機関へのバスツアーも4年ぶりに開催することができました。こうした学生同士の交流の機会を増やす試みも引き続き続けていきます。



教職員の集合写真。星野先生、高原先生最終講義にて

この一年間で教職員メンバーも変化してきております。2022年12月には光渦を用いた微細加工などで優れた業績を上げておられた助教の豊田耕平さんが民間企業に転出されました。また今年3月には、物質科学コースはもちろん、その前身である画像科学科を支えてこられた星野勝義先生と高原茂先生のお二人の先生が定年退職されました。3月にけやき会館で行われた最終講義では、それぞれの研究室のOBの方々や教職員も参加し、お二人のこれまでのご研究についてそれぞれお話をさせていただきました。また、同じく3月には技術職員として長年勤められておられた酒井朋子さんが退職されました。学生実験や工学部祭、各種行事の準備だけでなく、コロナ禍においてオンラインで大学に十分に来られない学生のために相談室を設置して対応に当たられるなど、大変ご尽力いただきました。4名の教職員が退職された一方で、育休に入られた立木美奈子さんの代替の技術職員として、新たに三矢節子さんが来られ、2023年4月からは酒井さんの後任の技術職員として採用されました。さらに4月からは渡邊正裕さんが後任の代替職員として着任し、学生実験やコースの共用設備管理などを行っていただいております。

社会情勢が大きく変動する中で着実に新しい時代への変化も進んでおります。この様な状況の中で我々物質科学コース教職員は、教育・研究活動を活発に継続していく所存です。卒業生の皆様におかれましては物質科学コースの今後の発展をご支援いただければと思います。



4年生卒業式後の謝恩会にて

■ 高原茂教授・星野勝義教授最終講義

高原茂先生と星野勝義先生が2023年3月末に定年退職されました。それに先立ちまして、2023年3月9日(木)に先生方の最終講義が開催されました。

最終講義は、西千葉キャンパスのけやき会館1階大ホールにおいて、15時より行われました。また、オンラインによるライブ配信も行いました。対面・オンライン参加を合わせて、学内外から100名近い方々のご出席がありました。高原先生は「つながる光化学と光機能材料」、星野先生は「セレンディピティな研究をめざして」というタイトルで



花束贈呈後に挨拶される高原教授



最終講義をされる星野教授

して」のご講演されました。どちらの先生も、ご自身の生い立ちから学生時代の思い出、そしてこれまでの研究活動に関して判りやすく、かつ情熱的に講演してくださいました。

今回は、コロナ禍ということで退職記念祝賀会の開催は叶いませんでしたが、最終講義の合間に、卒業生や学生などが先生方を囲んで和やかな雰囲気

で談笑されたり、記念写真が撮られたりしていたのが、大変印象的でした。

最後に、高原先生と星野先生の千葉大学での長年にわたる多大なご貢献に敬意を表すとともに、今後の益々のご活躍とご健勝をお祈り致します。

なお、最終講義の様子は下記のURLより視聴することができます。

<https://www.tp.chiba-u.jp/final/>

(塚田 学)

■ 幸運な旅の途中

高原 茂

本年3月に定年を迎え退職いたしました。1995年4月に着任して以来、28年間にわたりご支援をいただき、たいへんお世話になりました。心より御礼申し上げます。振り返ってみると企業で10年ほど働いたところで、もう少し光化学をやりたいなと思っていたところ、幸運にも、光反応性材料の教育、研究を千葉大学で続けることができました。日本が得意とするこの分野の企業の最前線で卒業生が活躍しているのを目にする度に喜びと反省を味わっています。さて、退職後働く予定もありましたが止め、その後、調子に乗って登山で転倒してしまったので、少し落ち着いている整理しながら、自由な境遇を感謝しつつ次の目標を考えています。

■ 退職のご挨拶

星野 勝義

1992年に画像工学科に転任して30年9カ月、本年3月をもって物質科学コースを定年退職しました。研究では、素晴らしき学生に恵まれ、当方志向の“中学生にもわかる科学”の一端を担うことができました。また、教育面では、教育GPの民間版とも言える化学人材育成プログラムのお世話をさせていただき、学生に恩返しをすることができました。さらに運営面では、VBLの施設長を拝命した際に、そのご研究において、私と同じようなアウトローの匂いがする先生方とお知り合いになれたのは嬉しい思い出です。

現在は共用機器センターの特任教授として、また、私企業の顧問として手を動かす毎日です。末筆になりますが、これまでお世話になりました全ての方々に感謝申し上げます。

■ 酒井朋子さんご退職

2017年度の定年後も再雇用職員としてご活躍されてきました酒井朋子氏が、2022年度をもってご退職されました。長年、コースのため、学生のため、そして技術職員のためにご尽力されてこられたことに敬意を表して、3月1日に最終講演会を対面にて開催し、多くの教職員の方々にご参加いただくことが出来ました。

「ディスプレイ・ホログラフィと共に歩んだ昭和・平成・令和の技術

職員生活」と題された講演で45年にわたる技術職員生活を様々なエピソードを交えて語っていただきました。

今後ともご健康に留意され、ご活躍されることを祈念いたします。

(小林 誠一)



共生応用化学コース

■ コース近況報告

共生応用化学コース 学部コース長 谷口 竜王



共生応用化学コース、ならびに共生応用化学科、物質工学科、応用化学科、機能材料工学科、工業化学科、合成化学科の卒業生の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。日頃より同窓会および第V部会に対するご

支援をありがとうございます。

改組された2017年4月に入学し、修士課程に進学した共生応用化学コース一期生は、2023年3月に修了しました。この間様々なことがありましたが、最も影響が大きかったのがコロナウイルス感染症でした。急速にオンライン化が進行したため、Moodleなどを利用したオンデマンド型学習環境の提供、移動の時間や費用を必要としないweb会議などのメリットを享受できた一方で、実験科目を中心とする講義科目、研究室ゼミ、卒業論文および修士論文の発表会、学会では、ディスカッションで物足りなさを感じることも多くありました。換気や除菌などに一定の配慮が必要であるものの、2023年度はほとんどの講義科目や学内外の各種発表会が、感染拡大前と同じ対面形式で実施されております。教職員も学生もオンラインと対面のそれぞれの長所を取り入れながら、研究活動などに取り組んでいます。

2023年度の共生応用化学コースは、新たな体制でスタートしました。長年にわたりコース、学部、大学の運営にもご尽力された関実先生（バイオプロセス化学研究室）が、2023年3月に定年退職されました。新たな勤務先である新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)でのご活躍を祈念いたします。また、2023年2月に花山博紀先生が、沖縄科学技術大学院大学から分子集合体化学研究室内の助教として着任されました。透過電子顕微鏡を駆使した分子集合機能に関わる研究のさらなる発展と教育活動でのご貢献も期待されます。なお、2024年3月に唐津孝先生（エネルギー変換材料化学研究室）が定年退職されます。最終講義などの詳細は共生応用化学コースHP (<https://chem.tf.chiba-u.jp>) で案内する予定です。

共生応用化学コースでは、工学部後援会からの補助金を学生の就職活動に必要な環境整備、国内外の先生を招いた講演会、卒業式に彩りを添える生け花の購入などに充ててきました。2020年度以降の就職・採用活動ではオンライン面接が数多く実施されたことから、2022年度にオンライン面接用ブースをコース就職支援室に1台

増設し、利便性を向上させることができました(写真)。しかしながら、2023年8月現在、エネルギー価格の上昇に伴う電気代などの高騰が、コースの運営を圧迫している状況にあります。実験の作業安全性や効率などの



観点から、電気配線やドラフトなどはインフラとして大学に整備してほしいところですが、これらの維持管理に必要な費用はコースで工面する必要があり、苦慮しております。このようななか、東洋合成記念財団から千葉大学基金を通して当コースを指定した寄附金を頂戴することになりました。コース会議で用途を議論し、実験室の電気配線工事、学生実験用設備(分析装置、蒸留水製造装置)の修理、共通測定室の空調機器の更新などに充てることとなりました。学内には設備更新に必要な費用を積み立てる制度がなく、共生応用化学コースでは装置を10年以上使い続けることが当たり前となっておりますので、貴重な資金として活用することにします。この場を借りまして、工学部後援会ならびに東洋合成記念財団に御礼申し上げます。

化学を専門領域とする研究では、反応機構など本質を理解する真理探究はもちろんですが、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)の達成に向け、化合物や機能材料の開発には高効率な合成手法だけでなく、環境に適合する廃棄プロセス設計までが求められる時代となりました。共生応用化学コースでは、教職員自ら資源や環境に対する意識を高め、研究を通して実践的な知識と技術、柔軟な発想を修得した学生を社会に輩出するよう努めますので、引き続きご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

■ 教員／学生の授賞(2022.10～)

・教員の受賞

小熊幸一名誉教授(本学本コース): 瑞宝中綬章の叙勲/関 実教授(バイオプロセス化学研究室): 2022年度化学工学会学会賞/関 実教授(バイオプロセス化学研究室): 2022年度 化学とマイクロ・ナノシステム学会学会賞

・学生の受賞(口頭発表)

化学工学会山形大会2023: 特別賞 林あゆみさん(バイオプロセス化学研究室)、大塚康児さん(バイオマテリアル研究室)、学生奨励賞 霜田有里さん(バイオプロ

セス化学研究室) / 第90回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会 第122回計測自動制御学会力学量計測部会第40回合同シンポジウム: 優秀講演賞若手の部 根岸佑衣さん(資源反応工学研究室) / 第12回CSJ化学フェスタ: 博士オーラル賞 相澤匠さん(分子集合体化学研究室) / 無機マテリアル学会第145回学術講演会: 優秀講演賞 島海真司さん(セラミック化学研究室)、笹村悠真さん(セラミック化学研究室)

・学生の受賞(ポスター発表)

16th International Workshop on Slow Positron Beam Techniques & Applications: Best Poster Award 淡路亮さん(計測化学研究室) / 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第47回研究会: 優秀発表賞 増山将太さん(バイオプロセス化学研究室)、齋藤雄平さん(バイオプロセス化学研究室) / 化学工学会 第88年会: 学生奨励賞 高木真惟さん(バイオプロセス化学研究室) / The 27th Symposium of Young Asian Biological Engineers' Community: YABEC 2022: Best Poster Award 平田瑞季さん(バイオプロセス化学研究室) / 繊維学会関東支部 2022年度講演会: 学生優秀発表賞 大坪尚人さん(資源反応工学研究室) / 第49回炭素材料学会年会: 学生優秀発表賞 鈴木峻伸さん(資源反応工学研究室) / 第12回CSJ化学フェスタ: 最優秀ポスター発表賞 田中駿乃介さん(表面電気化学研究室)、優秀ポスター発表賞 高橋輝さん(ソフト材料化学研究室)、金子直矢さん(エネルギー変換材料化学研究室)、加藤敦也さん(エネルギー変換材料化学研究室)、相澤匠さん(分子集合体化学研究室)、齋藤卓穂さん(分子集合体化学研究室)、柄堀芽生さん(分子集合体化学研究室)、板橋裕毅さん(分子集合体化学研究室)、山下修平さん(分子集合体化学研究室) / 第13回電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー: 優秀ポスター賞 島田大輝さん(表面電気化学研究室) / 化学工学会新潟大会2022: 優秀学生賞 平田瑞季さん(バイオプロセス化学研究室)、増山将太さん(バイオプロセス化学研究室)、学生特別賞 靱山貫太さん(バイオプロセス化学研究室)、学生奨励賞 増本天翔さん(環境化学研究室)

・学生の受賞(その他)

1455th International Conference on Environment and Natural Science: ICENS 2022: IASTEM Excellent Paper Award LI Jingnanさん(環境化学研究室)

(キアリルカ 記)

■ 共生応用化学コース 就職状況報告

令和4年度(2023年3月)学部卒業生・博士前期課程修了生の就職活動は、令和3年度の新型コロナウイ

ルス感染症が影響していた際のオンラインによる活動に加え、対面形式で行われました。学内にてOB・OGの皆様で開催していただいております仕事セミナーについても、対面でお話を伺う機会が増えました。学部卒業生については、79名が本学大学院、4名が他学大学院に進学し、10名が内々定をいただきました。就職先は、化学を含む製造業や財団(5名)、公務員/大学(3名)、情報通信(1名)、運輸(1名)でした。博士前期課程修了生については、2名が本学大学院博士後期課程に進学予定で、77名が内々定をいただきました。就職先は、公務員(2名)に加え、民間企業として化学(59名)、機械・電気(6名)、自動車(1名)、情報通信(8名)、その他(金融/コンサルティング)(2名)でした。例年と同様に、複数名を採用いただいた企業も多く、卒業生・修了生の皆様のご活躍が当コースへ好印象を与え、多くの採用につながっているものと思います。

令和5年度(2024年3月)卒業生・修了生についてはより早い時期からインターンシップに参加する学生が急増し、就職活動が長引いており、修士の研究活動にも影響が出ているように思います。修士1年からのインターンシップへの参加が増えた影響もあってか修士2年生につきましては7月までには希望者のほぼ全員が内々定をいただくことができました。

共生応用化学コースでは、今後も後援会の皆様からのご支援のもと、OB・OGによる仕事セミナーや学内での会社説明会、エントリーシートや面接対策の講習会などを実施し、学生への支援を行って参ります。企業でご活躍の卒業生・修了生の皆様も、もし仕事セミナーのご要望などがございましたら遠慮なく就職担当にご連絡ください。

皆様と連携しながら、教職員一丸となって就職をサポートしていきたいと考えております。今後とも、皆様からの温かいご支援、ご協力をいただけますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

(山田 泰弘 記)

■ 定年退職のご挨拶

関 実

令和5年3月末で千葉大学を定年退職いたしました。在職中にお世話になった教職員の皆様、および、在校生・卒業生の皆様に、心より御礼を申し上げます。

小生の学生時代は、第二次石油ショック後で、省エネルギー技術や石油代替技術の開発が強く求められていました。太陽電池、水素、風力、地熱、などの新エネルギーの研究の中で、バイオマスには、エネルギーだけでなく、

有機材料の原料としても大きな期待がありました。そういう意味で、バイオのプロセス技術に興味があって「化学工学」を専門分野に選びました。大学を出てから、三菱化成（現：三菱ケミカル）の横浜の研究所で4年ほど働きました。微生物による物質変換プロセスの仕事をしてもらい、その後の教育・研究の大きな礎となりました。大学の教員となってからは、東大で15年、大阪府立大で4年、2007年に千葉大に赴任して、16年勤めました。

研究は、学生時代から、生体触媒を利用した物質生産における工学的な課題、特に生きた細胞を使ったプロセスに関する問題に取り組んできました。微生物による物質生産の反応効率改善やプロセスの開発・制御に関わることで、植物培養細胞を利用した物質生産や細胞増殖・分化制御とスケールアップなどがテーマでした。東大の最後の頃から、プロセススケールダウンに関心を持ち、マイクロリアクターやマイクロデバイスを利用した微小流体システムによる分析・反応・培養などの仕事をするようになりました。千葉大学に来てからは、もう少し異なる展開をしようと考えていましたが、一から立ち上げた研究室が動き始めた頃から、大学組織の管理的な業務や学会・省庁関係の公的な仕事はどうしようもなく増えてきて、これも私の役割の一つと考えて努めているうちに定年を迎えたしまったという有様で、ちょっと残念な思いもあります。しかし、そんなものかもしれません。

工学研究科の副研究科長のときに、本学理工系の組織改革の検討をするように指示されて、大学本部や文科省の担当者と折衝を続ける中で、大学自身の裁量の範囲が余りに小さいことを思い知らされ、予算はともかく、組織だけは大学側で調整可能な仕組みにしないといけないと考えるようになりました。工学部長・工学研究科長になって、工学部を一学科にして、教員組織（工学研究院）を教育組織から分離する提案をしたのはそのためです。反対のご意見も頂きますが、いずれは、このことが生かされる時が来るのではないかと思います。副学長・理事として大学運営に関わるようになってからは、予算の裁量部分が少なく短期的なPJばかりが動いていることに愕然としました。長期的な青写真が必要ですが、その余裕もないのかもしれません。途中からはコロナに追われました。

退職後は、若い頃に近い仕事に戻って、経済産業省（NEDO）の「バイオものづくり」PJに関連する仕事をしています。昔と違うのは、単に脱石油ではなく、カーボン・ニュートラルの視点から、化石資源を使わない物質生産プロセスを構築し、バイオ・エコノミーを発展させることです。他の省庁や財団関連の仕事もいく

つか続けているので、同窓生にも、各所できどきお会いし、頼もしく感じております。元気なうちは暫く続けると思います。

最後に、同窓会の益々のご発展と会員皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

■ 新任教員紹介

助教 花山 博紀



2023年2月より共生応用化学コース分子集合体化学研究室の助教に着任した花山博紀です。2021年3月に東京大学理学系研究科化学専攻で学位を取得したのち、日本学術振興会特別研究員として2021年4月から2023年1月まで沖縄科学技術大学院大学で研究を行ってきました。博士課程では、透過電子顕微鏡を用いた有機単分子解析に取り組み、様々な分子を環内部に取り込むことで知られるシクロデキストリンが新たな結合様式で分子と錯形成しうることを明らかにしました。また、特別研究員としてはナノグラフェン・グラフェンナノリボンの精密有機合成に新たに挑戦し、さらにグラフェンナノリボンの電子顕微鏡を用いた構造決定法の開発を進めていました。このように、私は透過電子顕微鏡という原子分解能の映像化手法と有機分子の構造や相互作用に注目する有機化学を組み合わせることで、従来のスペクトル解析や結晶構造解析といった系中の分子全体に渡り平均化された情報では得られない情報を取り出し、新たな化学を生み出すというところに注目して研究を行ってきました。

現在所属している分子集合体化学研究室の矢貝教授は、有機分子が一次元に集合・伸長し、メソスケールにおいて螺旋など様々なトポロジーを創り出す魅力的な分子系を研究しています。これらの化学も学ばせていただき、自分の得意とするナノスケール構造創成・解析をメソ～マクロスケールに拡張して独自の新しい研究分野を切り拓いていく所存です。化学は長い歴史の中で円熟しているように見えますが、まだまだ有機分子にはさらなる革新的な発展をもたらすポテンシャルが眠っていると信じています。挑戦心を忘れず研究に邁進していきます。

また、教員としての経験は千葉大学着任前にはないのですが、学生が大学で真の意味で成長できるように助けて、高め合っていけるような環境を作っていきたいと考えております。経験も乏しく至らぬ点も多いと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

松 芸 展

■ 第15回 松芸展のお知らせ

来年2024年4月14日～20日の間、第15回松芸展を有楽町・東京交通会館1階ギャラリーパールルームで



開催いたします。当会は千葉大建築学科同窓生なら何方でも参加できますので、奮って参加ください。作品は平面作品（油彩、水彩、アクリル、日本画、版画）、立体作品（陶芸、彫刻）を対象としております。今年2023年の参加者は代表の安生満はじめ10名、51点の出展（一人5点～7点、6号～20号）がありました。同窓の方、絵画愛好の方のご来場をお待ちしております。

松芸展代表 安生 満（1954年卒）
同 事 務 局 田口 裕一（1962年卒）
〒202-0022 西東京市柳沢3-4-2-203
電話：080-2042-4628
Mail：geelbec@gmail.com

凡 展

1990年以来、2019年には30回を重ね、コロナ禍のため残念ながら2020年から2年続けて中止せざるを得ませんでしたが、昨年は3年ぶりに第31回を無事開催することができました。今年も第32回を10月1～7日の7日間、東京交通会館（東京・有楽町）にて開催します。

今回は32名の出品者より、このグループ展の大きな特徴である、絵画や写真、CG、書、立体造形など、幅広いジャンルの作品が寄せられます。コロナ禍はひとことは変化してきているものの、まだまだ予断を許さない様相ですが、会場運営には十分配慮し、和やかさを大切にする本展の特色を損なうことの無いよう、出品者の同窓生や先輩・後輩たちの交流の場としても、来場者の皆さまにもご協力をお願いしながら、何とか無事に最終日が迎えられることを願っています。

昨年は凡展代表として長年にわたり本展を支えていただいた森崇先生の急逝という、予期せぬ事態もありましたが、同氏の遺志を受け継ぎ、今後も志新たに本展の継続に努めてまいります。

また、凡展では随時、新メンバーを募集しています。

開催状況は工学部同窓会のホームページでもご紹介していきますので、ぜひ一度ご来場のうえ会場の雰囲気を感じていただき、さまざまなジャンルの出品をお待ちしております。

本展開催にあたっては、これまで大学関係者や同窓生の皆さまのご支援をいただき、心より感謝しております。今後とも引き続きましてご支援のほど、よろしく願いたします。



第31回凡展(2022年)出品者

凡展代表：水野 晃一（意匠9回卒）
事 務 局：蔦谷 邦夫（意匠25回卒）
〒108-0073 東京都港区三田4-3-15
電話：03-3453-2567 メール：tsuta-3@nifty.com
千葉大学工学同窓会 凡展HP：https://chiba-kougaku-dosokai.jp/?page_id=927



令和4年度事業報告

令和4年4月1日から令和5年3月31日までに実施した主な事業について、以下の通り報告致します。

令和4年度に計画されていた行事については、オンライン会議の併用もあり、ほぼ予定通りに実施されました。

1. 工学同窓会報の編集・発行

令和4年11月24日に第49号(全32ページ、24,422部)を会員に発送しました。会報には、工学部創立100周年記念事業の趣意書ならびにご寄附のお願いも掲載しました。

2. 令和4年度工学同窓会 総会および懇親会

令和4年5月21日に松韻会館1階第1会議室にて(ネット併用)総会を開催しました。総会では、まず令和3年度事業報告・決算報告・会計監査報告があり、原案通り承認されました。次いで、任期2年目となる橋本浩行会長が議長として指名されて令和4年度事業計画・予算案の提案があり、原案通り承認されました。最後に、校友会活動の報告、100周年記念事業の報告およびご支援のお願いがありました。懇親会はコロナ禍により中止する事となりました。

3. 学生活動への支援

例年通り、工学部学生が主体となっている課外活動に対し、5団体(フォーミュラ・プロジェクト、ロボコン、卒業設計展2023、CUAD、意匠展2023)に総額100万円を支援しました。

4. 新入生・卒業生および退職教員への記念品贈呈

新入生685名に多色ボールペン、男性卒業生552名にネクタイピン、女性卒業生120名にリングを贈呈しました。さらに、同窓会にご貢献いただいた森田昇先生に金のネクタイピンを退職記念として贈呈しました。

5. 工学部への支援

会費徴収等でもお世話になっている工学部の各種活動に賛助金として支援しました。工学部アーカイブ整備にも活用されています。

6. 非常勤講師に対する援助

実社会で活躍されている学外講師による講義の実施のために、講演謝金を援助しました。

7. 千葉大学校友会

令和4年度校友会総会につきましては、対面とオンライン併用にて開催し懇親会はコロナ禍により中止となりました。

8. 工学部創立100周年記念事業

令和4年6月28日第1回、12月8日第2回100周年記念事業委員会を開催しました。

令和4年度 千葉大学工学同窓会 決算

■収入の部 (単位：円)

費目	予算①	決算②	①-②
前年度繰越金	91,169	91,169	0
入会金	6,650,000	6,560,000	90,000
会費	2,100,000	1,504,000	596,000
寄附金	2,300,000	2,144,000	156,000
総会参加費	50,000	0	50,000
利息・雑収入	10	0	10
特別会計から繰入	1,400,000	2,313,000	△ 913,000
合計	12,591,179	12,612,169	△ 20,990

■支出の部 (単位：円)

費目	予算①	決算②	①-②
会報編集発行費	4,800,000	4,825,062	△ 25,062
入学・卒業記念品費	1,000,000	977,757	22,243
総会経費	150,000	24,936	125,064
名簿管理費	220,000	220,000	0
HP費	150,000	140,800	9,200
部会・支部活動補助費	630,000	621,000	9,000
工学部賛助金	650,000	600,000	50,000
校友会費	150,000	150,000	0
学生援助費	1,000,000	1,000,000	0
非常勤講師援助費	400,000	410,000	△ 10,000
会議費	30,000	16,224	13,776
渉外費	30,000	30,492	△ 492
学内懇親会費	100,000	0	100,000
慶弔費	50,000	0	50,000
郵送通信費	460,000	460,626	△ 626
交通費	90,000	80,960	9,040
幹事担当部会運営費	30,000	0	30,000
事務員費	1,000,000	949,000	51,000
消耗品費	50,000	20,455	29,545
事務運営費	20,000	0	20,000
事務室備品費	20,000	0	20,000
雑費	50,000	39,700	10,300
創立100周年記念事業費	1,500,000	1,874,550	△ 374,550
予備費	11,179	0	11,179
(繰越金)	0	170,607	△ 170,607
合計	12,591,179	12,612,169	△ 20,990

支出において、予算額と決算額との間で特に大きな増減があった費目について、具体的な内容は以下の通りとなります。

- ・会報編集発行費：100周年記念事業のチラシを会報に加えたため支出が増加しました。

- ・総会経費：懇親会が中止になったため支出が減少しました。

- ・創立100周年記念事業費：100周年記念誌発行に向けて資料収集人件費、会議費のため支出が増加しました。

- ・会議費・学内懇親会費：オンライン併用になったため支出が減少しました。

令和5年度総会について

令和5年6月3日（土）、千葉大学工学同窓会定時総会を開催いたしました。令和2年の春から続くコロナ禍もようやく収まりつつある状況でしたが、会員皆様の健康に考慮して、令和5年度も誠に残念ながら昨年度に引き続きオンラインと対面でのハイブリッド開催となりました。千葉大学の会場は、昨年度同様松韻会館大会議室とさせていただきます。現地会場には新役員および100周年記念事業にご尽力いただいている宮崎紀郎千葉大学名誉教授、小林謙一千葉大学名誉教授、伊藤智義名誉会長代理として宮城大輔工学部副学部長、杉木清彦顧問にご出席いただきました。

定時総会は、まず昨年度まで幹事部会であったV部会橋本浩行前会長が議長として指名され、新幹事長の佐藤公信教授（I部会）の司会のもと始まりました。最終的な出席者は24名（対面16名、オンライン8名）でした。最初に、上川直文・前幹事長（V部会）より令和4年度の事業報告ならびに決算報告があり、次いで原正樹・学外会計監事（I部会）から会計監査報告がありました。これらの議案について、賛成多数にて承認されました。次に、令和5年度の役員選出が提案され、賛成多数にて承認されたことを受け、新会長原様より、就任のご挨拶がありました。

引き続き、佐藤公信・令和5年度幹事長（I部会）より、令和5年度の事業計画および予算案が提案され、質疑のあと、賛成多数にて承認されました。次に、上川直文・令和4年度校友会幹事より、校友会活動について報告がありました。次いで、小坏成一・100周年記念事業委員長より、100周年記念事業について準備報告が行われた後、コロナ禍の状況が改善されないため100周年記念式典の開催のさらなる延期が提案され承認されました。さらに、同事業に対する寄附金の募集について現状報告がありました。最後に、司会の佐藤幹事長より閉会宣言があり、定時総会は終了しました。

来年度の定時総会と懇親会は、状況が改善されましたらけやき会館にて令和6年春に開催予定です。総会開催方法などについては状況により変更がございますので工学同窓会ホームページでのご確認もお願いいたします。皆様と対面でお目にかかれることを願っております。



寄附者一覧

(注) 特は特別会員(現旧職員、ただし正会員は除く)、()内は所属部会
令和4年度(令和4年4月1日~令和5年3月31日)

■ 100口 ■	阿久津文彦 (V)	野口 誠治 (Ⅲ)	松本 和浩 (Ⅱ)	尾上 孝一 (Ⅱ)
三浦 邦夫 (Ⅲ)	伊藤 一郎 (V)	馬場 和幸 (Ⅲ)	山田 憲司 (Ⅱ)	大家 教正 (Ⅱ)
■ 99口 ■	大宮 秀一 (V)	廣橋 光治 (Ⅲ)	阿波野康彦 (Ⅲ)	大林 和彦 (Ⅱ)
松谷 貫司 (Ⅲ)	三野 育宏 (V)	村田 実 (Ⅲ)	河田 進 (Ⅲ)	大美賀久夫 (Ⅱ)
■ 30口 ■	吉田 俊夫 (V)	森本 敏夫 (Ⅲ)	笹川 俊勝 (Ⅲ)	大室 裕 (Ⅱ)
柳澤 朋夫 (Ⅱ)	武川 毅 (院全)	飯塚 矩規 (Ⅳ)	園山 芳 (Ⅲ)	太田 達見 (Ⅱ)
■ 20口 ■	■ 8口 ■	蔭山 之雄 (Ⅳ)	武之内教男 (Ⅲ)	長田 勝彦 (Ⅱ)
小野原 勉 (Ⅲ)	新垣 強二 (Ⅲ)	櫛淵 光彦 (Ⅳ)	戸羽 貴弥 (Ⅲ)	加藤由紀子 (Ⅱ)
清水 政志 (Ⅲ)	■ 7口 ■	高橋 賢一 (Ⅳ)	中村 正 (Ⅲ)	加藤 宏一 (Ⅱ)
■ 19口 ■	緒方 一裕 (Ⅲ)	中川 邦夫 (Ⅳ)	山下 嘉久 (Ⅲ)	金沢 健蔵 (Ⅱ)
菅原 勝寿 (Ⅰ)	■ 6口 ■	中富 仁 (Ⅳ)	山本 賀彦 (Ⅲ)	神楽 一弘 (Ⅱ)
峰田 富康 (Ⅵ)	成毛喜一郎 (Ⅳ)	中野 和則 (Ⅳ)	筋 伸一 (Ⅳ)	神山 正樹 (Ⅱ)
■ 10口 ■	平塚今朝人 (Ⅳ)	林 久雄 (Ⅳ)	岩瀬 俊夫 (Ⅳ)	小林 孝至 (Ⅱ)
伊豆 裕一 (Ⅰ)	■ 5口 ■	福部 國弘 (Ⅳ)	小笠原弘適 (Ⅳ)	進士 英治 (Ⅱ)
西田 義隆 (Ⅰ)	中川 利夫 (Ⅱ)	三宅 正高 (Ⅳ)	尾崎 元昭 (Ⅳ)	鈴木 忠道 (Ⅱ)
三田村隆司 (Ⅱ)	小川 秀司 (Ⅲ)	茂出木敏雄 (Ⅳ)	大滝 正道 (Ⅳ)	勢木宇太郎 (Ⅱ)
小川 秀雄 (Ⅲ)	大野千左人 (Ⅲ)	相沢 輝樹 (Ⅴ)	戸嶋 禮助 (Ⅳ)	田口 裕一 (Ⅱ)
岡野 敏次 (Ⅲ)	加納 正五 (Ⅲ)	五十嵐洋一 (Ⅴ)	菊地 英夫 (Ⅴ)	高橋 八朗 (Ⅱ)
古作 康幸 (Ⅲ)	郷 茂博 (Ⅲ)	飯島 剛 (Ⅴ)	清水 博之 (Ⅴ)	竹生 敏俗 (Ⅱ)
千葉 康徳 (Ⅲ)	藤代 裕 (Ⅲ)	上田 卓是 (Ⅴ)	高橋 雅樹 (Ⅴ)	谷口 寛明 (Ⅱ)
江口 幸一 (Ⅳ)	丹野 雅行 (Ⅳ)	大谷 博之 (Ⅴ)	中澤 大地 (Ⅴ)	塚本 正臣 (Ⅱ)
玉沢 学 (Ⅳ)	田中 昌幸 (Ⅴ)	河辻 輝之 (Ⅴ)	中村佐紀子 (Ⅴ)	寺田 岳彦 (Ⅱ)
小川 泰治 (Ⅴ)	福山賛次郎 (Ⅴ)	坂本 英治 (Ⅴ)	原 勇一 (Ⅴ)	徳田 彰士 (Ⅱ)
掛川 一幸 (Ⅴ)	原田紀枝子 (Ⅶ)	白井 栄 (Ⅴ)	平井 公德 (Ⅴ)	中島 將好 (Ⅱ)
桂 義郎 (Ⅴ)	瞿 成功 (Ⅹ)	関口 洋一 (Ⅴ)	村雄 弘尚 (Ⅴ)	畑野 肇 (Ⅱ)
田中 秀典 (Ⅴ)	新村 和彦 (Ⅹ)	長谷川静史 (Ⅴ)	山崎 泰洋 (Ⅴ)	幡 好明 (Ⅱ)
木村 好雄 (Ⅶ)	上村 篤輝 (院全)	浜田 孝夫 (Ⅴ)	片山 亮吾 (Ⅶ)	原 健二 (Ⅱ)
正田 章 (Ⅶ)	魯 云 (職員)	松尾 弘任 (Ⅴ)	岸川 覚 (Ⅶ)	松本 明 (Ⅱ)
宮崎 嵩大 (院全)	■ 4口 ■	森 元 (Ⅴ)	三村 到 (Ⅶ)	三好 尚武 (Ⅱ)
千葉 大奨 (共生)	浅野 英昭 (Ⅰ)	柳田 利幸 (Ⅴ)	■ 2口 ■	安田征一郎 (Ⅱ)
岡田歩久登 (電機)	大沼 隆 (Ⅰ)	入山 隆 (Ⅵ)	赤羽 元英 (Ⅰ)	山崎 眞詠 (Ⅱ)
米地 正大 (電機)	北山 睦人 (Ⅰ)	日比野繁雄 (Ⅵ)	小内 朝子 (Ⅰ)	吉崎 春雄 (Ⅱ)
■ 9口 ■	川田 暢子 (Ⅱ)	山神 知 (Ⅶ)	岡田 優 (Ⅰ)	吉澤 輝三 (Ⅱ)
中口 哲治 (Ⅰ)	坂口 守夫 (Ⅱ)	山田 秀夫 (Ⅶ)	岡本 浩志 (Ⅰ)	渡辺 光雄 (Ⅱ)
中澤 文隆 (Ⅰ)	椎名 國雄 (Ⅱ)	高橋 愛 (Ⅷ)	加藤 久夫 (Ⅰ)	渡邊 孝 (Ⅱ)
須永 和夫 (Ⅱ)	中野清一郎 (Ⅱ)	赤木 卓也 (院全)	香西 一雄 (Ⅰ)	安達 博一 (Ⅲ)
菊池 隆司 (Ⅲ)	藤巻 慎一 (Ⅱ)	川口 晃平 (院全)	甲斐 茂 (Ⅰ)	荒井 茂 (Ⅲ)
菅沢 深 (Ⅲ)	森 勝一 (Ⅱ)	工藤 泰代 (院全)	関 壮一 (Ⅰ)	伊野 敏道 (Ⅲ)
照井 隆 (Ⅲ)	若松 永 (Ⅱ)	加集 裕久 (物工)	藤田 勉 (Ⅰ)	池田克登志 (Ⅲ)
戸原 葱 (Ⅲ)	青木 一郎 (Ⅲ)	坂本 裕彬 (総工)	御園 秀一 (Ⅰ)	石橋 範宣 (Ⅲ)
松谷 正明 (Ⅲ)	五十嵐 実 (Ⅲ)	鈴木 康之 (電機)	御手洗昌子 (Ⅰ)	岩井 隆夫 (Ⅲ)
柳澤 章 (Ⅲ)	壱岐 良輔 (Ⅲ)	鈴木 洋行 (意建)	水野 晃一 (Ⅰ)	岩本 光則 (Ⅲ)
石田裕一郎 (Ⅳ)	佐々木裕幸 (Ⅲ)	蜂屋 弘之 (職員)	森川 明 (Ⅰ)	内田 彰 (Ⅲ)
草深 博好 (Ⅳ)	斉藤 英司 (Ⅲ)	■ 3口 ■	山口 明 (Ⅰ)	岡野 稔 (Ⅲ)
田中 敏光 (Ⅳ)	坂本 和也 (Ⅲ)	宮崎 清 (Ⅰ)	安藤 伸治 (Ⅱ)	川尻 順一 (Ⅲ)
宗雪 敏史 (Ⅳ)	武井 健治 (Ⅲ)	小幡 和夫 (Ⅱ)	合葉英二郎 (Ⅱ)	菊池 健二 (Ⅲ)
茂呂 昌男 (Ⅳ)	中里見直道 (Ⅲ)	二村 陽子 (Ⅱ)	井田 良市 (Ⅱ)	楠川 則正 (Ⅲ)

倉林 克行 (Ⅲ)	佐藤 光一 (Ⅳ)	守 敏男 (Ⅴ)	小林 宏司 (Ⅰ)	古戸 睦子 (Ⅱ)
桑原 健郎 (Ⅲ)	酒井 洋 (Ⅳ)	八木 章 (Ⅴ)	酒井 重彌 (Ⅰ)	真柴 正徳 (Ⅱ)
小林 貞彦 (Ⅲ)	杉本 和英 (Ⅳ)	梁田 賢悦 (Ⅴ)	澤田 均 (Ⅰ)	前原 信達 (Ⅱ)
小間喜三郎 (Ⅲ)	田村 重雄 (Ⅳ)	吉田 博 (Ⅴ)	渋谷 久紀 (Ⅰ)	宮本 圭一 (Ⅱ)
下村 孝 (Ⅲ)	田村 均 (Ⅳ)	池田 一恵 (Ⅵ)	多田 学 (Ⅰ)	室殿 一哉 (Ⅱ)
白子 行成 (Ⅲ)	高須 伸夫 (Ⅳ)	今城 力夫 (Ⅵ)	高橋 和靖 (Ⅰ)	森 敏章 (Ⅱ)
鈴木 誠 (Ⅲ)	高橋 盛広 (Ⅳ)	大森 雅久 (Ⅵ)	高橋 正 (Ⅰ)	矢作 茂 (Ⅱ)
瀬戸 勝幸 (Ⅲ)	高山 建三 (Ⅳ)	片桐 徹 (Ⅵ)	竹形 夏野 (Ⅰ)	山縣 宣文 (Ⅱ)
相馬 一朗 (Ⅲ)	塚本 允孜 (Ⅳ)	斉藤 光範 (Ⅵ)	立部 紀夫 (Ⅰ)	山本 晃 (Ⅱ)
園田 治朗 (Ⅲ)	仁田 昇 (Ⅳ)	未光 裕治 (Ⅵ)	中野 正孝 (Ⅰ)	山本 健司 (Ⅱ)
田辺 和一 (Ⅲ)	芳賀 光雄 (Ⅳ)	高橋 恭介 (Ⅵ)	前川 健 (Ⅰ)	吉田 龍生 (Ⅱ)
津下 豊彦 (Ⅲ)	松尾 達樹 (Ⅳ)	土屋 元彦 (Ⅵ)	宮沢 彰博 (Ⅰ)	吉原 敏裕 (Ⅱ)
塚原 興治 (Ⅲ)	三浦真由美 (Ⅳ)	中村 勝利 (Ⅵ)	山田 卓生 (Ⅰ)	渡辺 実 (Ⅱ)
出口 伸幸 (Ⅲ)	宮原 一敏 (Ⅳ)	宮田 弘幸 (Ⅵ)	米村 勉 (Ⅰ)	相沢 芳彦 (Ⅲ)
中島 重利 (Ⅲ)	保田 広安 (Ⅳ)	山口 弘 (Ⅵ)	阿部 隆廣 (Ⅱ)	麻生 正 (Ⅲ)
中林 研司 (Ⅲ)	吉田 生雄 (Ⅳ)	穂谷 久人 (Ⅶ)	天野 純 (Ⅱ)	井上 勉 (Ⅲ)
中村 雅勇 (Ⅲ)	浅見 栄二 (Ⅴ)	岩田 耕平 (Ⅶ)	伊藤 明 (Ⅱ)	井上 浩一 (Ⅲ)
中村 仁 (Ⅲ)	井上由美子 (Ⅴ)	勝又 堯男 (Ⅶ)	石橋 実 (Ⅱ)	伊藤 宏治 (Ⅲ)
中村 一馬 (Ⅲ)	石井 尚文 (Ⅴ)	九門 明 (Ⅶ)	石原 弘仁 (Ⅱ)	伊藤 健一 (Ⅲ)
永田 朗 (Ⅲ)	石丸 貞冬 (Ⅴ)	定田 明 (Ⅶ)	岩崎 哲朗 (Ⅱ)	生駒 達一 (Ⅲ)
根本 一郎 (Ⅲ)	梅田 正造 (Ⅴ)	手塚 景二 (Ⅶ)	岩澤 昭彦 (Ⅱ)	石田 修一 (Ⅲ)
舘庭 正信 (Ⅲ)	奥山 敏樹 (Ⅴ)	沼野 博文 (Ⅶ)	岩瀬 真理 (Ⅱ)	市川 浩伸 (Ⅲ)
橋場 淑行 (Ⅲ)	片岡 正 (Ⅴ)	渋谷 岳人 (Ⅵ・Ⅶ)	神崎 健 (Ⅱ)	岩佐 弘志 (Ⅲ)
橋本 悦次 (Ⅲ)	蕪木 健二 (Ⅴ)	山本 衛 (Ⅵ・Ⅶ)	木下 理智 (Ⅱ)	上田 俊弘 (Ⅲ)
英 聖一 (Ⅲ)	川嶋 静雄 (Ⅴ)	福永 博哉 (Ⅸ)	木谷 勤治 (Ⅱ)	遠藤 誠久 (Ⅲ)
林 侑孝 (Ⅲ)	川田 晃嗣 (Ⅴ)	二見 泰雄 (Ⅸ)	喜地 良男 (Ⅱ)	小口 博義 (Ⅲ)
林 静男 (Ⅲ)	北谷 純治 (Ⅴ)	安藤 賢孝 (Ⅹ)	桐谷 治孝 (Ⅱ)	尾高 猛敏 (Ⅲ)
平井 秀明 (Ⅲ)	久保田勘也 (Ⅴ)	岡野 直美 (Ⅹ)	近藤 昭男 (Ⅱ)	大森 一樹 (Ⅲ)
廣瀬 喜明 (Ⅲ)	熊田 浩明 (Ⅴ)	清水いそ江 (Ⅹ)	佐藤 初美 (Ⅱ)	岡本 保孝 (Ⅲ)
藤田 尚美 (Ⅲ)	栗原 信介 (Ⅴ)	鈴木 純子 (Ⅹ)	佐藤 光徳 (Ⅱ)	加藤 幸三 (Ⅲ)
松井 雅男 (Ⅲ)	小林 敬古 (Ⅴ)	長谷川雄祐 (Ⅹ)	斎藤 敏夫 (Ⅱ)	加藤 次雄 (Ⅲ)
松崎 久徳 (Ⅲ)	小山 正泰 (Ⅴ)	原 安雄 (Ⅹ)	清水 猛 (Ⅱ)	小池 幸仁 (Ⅲ)
松本 嘉己 (Ⅲ)	佐野 道雄 (Ⅴ)	赤江 信哉 (院全)	清水 四郎 (Ⅱ)	小池 憲浩 (Ⅲ)
三代川滋則 (Ⅲ)	斎藤 晴夫 (Ⅴ)	稲垣 友梨 (院全)	下川 厚子 (Ⅱ)	小泉 貴史 (Ⅲ)
望月 重克 (Ⅲ)	篠田 次男 (Ⅴ)	佐藤 彰人 (院全)	鈴木 健久 (Ⅱ)	小出 富夫 (Ⅲ)
山崎 秀夫 (Ⅲ)	杉森 由章 (Ⅴ)	白石 拓也 (院全)	瀬川二三男 (Ⅱ)	佐藤 雄三 (Ⅲ)
山澤 智仁 (Ⅲ)	杉山 武 (Ⅴ)	野崎 彩花 (院全)	瀬戸 守 (Ⅱ)	白林 隆志 (Ⅲ)
米田 喬 (Ⅲ)	鈴木 淳 (Ⅴ)	良知 耕平 (院全)	田中 純一 (Ⅱ)	鈴木 幹人 (Ⅲ)
畔上 栄輔 (Ⅳ)	田中 満 (Ⅴ)	和田 賢二 (院全)	高橋 浩治 (Ⅱ)	関 繁松 (Ⅲ)
天野 譯溥 (Ⅳ)	高橋 建司 (Ⅴ)	良知壮太郎 (Ⅹ)	高原 正弘 (Ⅱ)	田川 正洋 (Ⅲ)
伊藤 公一 (Ⅳ)	竹中 史夫 (Ⅴ)	小林 航 (電機)	手島 雅生 (Ⅱ)	田谷 耕一 (Ⅲ)
石崎 長俊 (Ⅳ)	反保 一雄 (Ⅴ)	角田祥次郎 (電機)	富永 慶宇 (Ⅱ)	田村 健 (Ⅲ)
今田 伸司 (Ⅳ)	地曳 広志 (Ⅴ)	平山 和貴 (電機)	長瀬 悟 (Ⅱ)	谷本 信雄 (Ⅲ)
岩瀬 健志 (Ⅳ)	戸森 浩 (Ⅴ)	市川 稜 (総工)	丹羽 正徳 (Ⅱ)	塚越 一基 (Ⅲ)
尾崎 裕治 (Ⅳ)	豊島 晴子 (Ⅴ)	高橋 尚悟 (総工)	萩原 繁壽 (Ⅱ)	徳屋 友彦 (Ⅲ)
大滝 長孝 (Ⅳ)	長谷川清和 (Ⅴ)	■ 1口 ■	橋本 康夫 (Ⅱ)	根岸 廣介 (Ⅲ)
加藤 洋一 (Ⅳ)	平田 和広 (Ⅴ)	井上 勉 (Ⅰ)	秦 孝一 (Ⅱ)	根本 達也 (Ⅲ)
木村 千秋 (Ⅳ)	府中 裕一 (Ⅴ)	川添 集朗 (Ⅰ)	引地 健彦 (Ⅱ)	野本 道雄 (Ⅲ)
草野 祐一 (Ⅳ)	増田 啓司 (Ⅴ)	木村 宏 (Ⅰ)	広瀬 辰男 (Ⅱ)	日向 武夫 (Ⅲ)
小久保 優 (Ⅳ)	物井 恵一 (Ⅴ)	小嶋 良一 (Ⅰ)	藤本 匡 (Ⅱ)	平出 礼一 (Ⅲ)

広瀬 次郎 (Ⅲ)	相馬 敦郎 (Ⅳ)	鶴田 利彦 (Ⅴ)	足立 茂聡 (Ⅶ)	喜美候部継示 (Ⅹ)
広瀬 正敦 (Ⅲ)	田口 忠 (Ⅳ)	戸田 雅也 (Ⅴ)	蛭原富司也 (Ⅶ)	白石 雅士 (Ⅹ)
福田 昭 (Ⅲ)	田辺 喜彦 (Ⅳ)	内藤 季和 (Ⅴ)	大久保安浩 (Ⅶ)	高橋 和克 (Ⅹ)
本忠 瑞穂 (Ⅲ)	高橋 勉 (Ⅳ)	成田 周作 (Ⅴ)	大塚 武史 (Ⅶ)	塚越愛樹彦 (Ⅹ)
三宅 伸治 (Ⅲ)	近岡 宏 (Ⅳ)	野上 哲雄 (Ⅴ)	加瀬 元禮 (Ⅶ)	野本 耕一 (Ⅹ)
村松 武 (Ⅲ)	長野 浩俊 (Ⅳ)	細井 映司 (Ⅴ)	柏原 克昭 (Ⅶ)	古月 美恵 (Ⅹ)
森岡 光 (Ⅲ)	二宮 功 (Ⅳ)	三浦 恵美 (Ⅴ)	川口 恵造 (Ⅶ)	神子澤幹子 (Ⅹ)
諸橋 久重 (Ⅲ)	西田 誠夫 (Ⅳ)	三好 敬 (Ⅴ)	久家 毅 (Ⅶ)	山口 英明 (Ⅹ)
山岸 祐二 (Ⅲ)	西塚 晶彦 (Ⅳ)	水野 典子 (Ⅴ)	小出 敏明 (Ⅶ)	弓田 博 (Ⅹ)
山口 優 (Ⅲ)	階上 保 (Ⅳ)	柳田 幸子 (Ⅴ)	齋藤駿一郎 (Ⅶ)	吉井 昭宏 (Ⅹ)
山崎 英昭 (Ⅲ)	橋本 聡 (Ⅳ)	山田 信彦 (Ⅴ)	笹木 順之 (Ⅶ)	石井 琢郎 (院全)
山本 直樹 (Ⅲ)	藤倉 信之 (Ⅳ)	山田 莊太 (Ⅴ)	下川原厚男 (Ⅶ)	大川 将平 (院全)
吉野 耕司 (Ⅲ)	古川 秀樹 (Ⅳ)	山本 晋介 (Ⅴ)	新宮領 慧 (Ⅶ)	北澤 智志 (院全)
和田 岳弘 (Ⅲ)	細井 正男 (Ⅳ)	渡辺 利一 (Ⅴ)	高橋 健二 (Ⅶ)	榊 遼平 (院全)
脇田 康之 (Ⅲ)	松原 聡志 (Ⅳ)	渡辺 光司 (Ⅴ)	竹原 悟 (Ⅶ)	中村 晃貴 (院全)
渡邊 洋 (Ⅲ)	丸山 敏夫 (Ⅳ)	渡辺 淳一 (Ⅴ)	玉井 正義 (Ⅶ)	三上 弘文 (院全)
渡邊 豊 (Ⅲ)	三國 宏一 (Ⅳ)	石井 彪 (Ⅵ)	中村 威 (Ⅶ)	吉井 孝子 (院全)
渡辺 信彦 (Ⅲ)	見月 真人 (Ⅳ)	石田 浩男 (Ⅵ)	中村 幹 (Ⅶ)	岡 綾子 (Ⅹ)
青木 基郎 (Ⅳ)	宮田 正彦 (Ⅳ)	影山 雅英 (Ⅵ)	西 邦夫 (Ⅶ)	中島 朋哉 (共生)
浅沼 俊一 (Ⅳ)	茂木 節雄 (Ⅳ)	金子 茂 (Ⅵ)	貫井 義昭 (Ⅶ)	佃 えり子 (物工)
浅野 元晴 (Ⅳ)	山本 吾郎 (Ⅳ)	小出 哲司 (Ⅵ)	長谷川隆史 (Ⅶ)	中田 創 (物工)
雨宮 康修 (Ⅳ)	米須 清英 (Ⅳ)	斉藤 延夫 (Ⅵ)	林 三千男 (Ⅶ)	濱野 一平 (物工)
井本 一彦 (Ⅳ)	有田 潔 (Ⅴ)	斉藤 彰 (Ⅵ)	樋口 宗治 (Ⅶ)	松田 高博 (物工)
池田 健二 (Ⅳ)	伊倉賢一郎 (Ⅴ)	篠田 豊 (Ⅵ)	松本 哲雄 (Ⅶ)	木下 麻耶 (情報)
岩田 春久 (Ⅳ)	石塚 洋 (Ⅴ)	白鳥真太郎 (Ⅵ)	緑川 文男 (Ⅶ)	橋本理恵子 (情報)
上野 文男 (Ⅳ)	石本 亮治 (Ⅴ)	新川 幸治 (Ⅵ)	山田 旬 (Ⅶ)	林 穂 (情報)
上野 豊 (Ⅳ)	稲木 秀次 (Ⅴ)	地引 勝 (Ⅵ)	青木 功 (Ⅵ・Ⅶ)	坂間 洸之 (画像)
薄葉 光弘 (Ⅳ)	浦和茂登男 (Ⅴ)	鈴木 英夫 (Ⅵ)	大井 宏友 (Ⅵ・Ⅶ)	志村 祥隆 (画像)
榎並 誠 (Ⅳ)	加藤 崇 (Ⅴ)	田村 知久 (Ⅵ)	君島 堅一 (Ⅵ・Ⅶ)	氏原 芳朗 (電機)
小原 健司 (Ⅳ)	片野 彰 (Ⅴ)	高須 義雄 (Ⅵ)	酒井 伸和 (Ⅵ・Ⅶ)	内田 亮 (電機)
大池 高保 (Ⅳ)	上條 堅次 (Ⅴ)	塚越 初雄 (Ⅵ)	菅原 勝彦 (Ⅵ・Ⅶ)	小川 尚記 (電機)
大里 英夫 (Ⅳ)	久世 茂樹 (Ⅴ)	次田 誠 (Ⅵ)	沼本 格 (Ⅵ・Ⅶ)	梶原 紘嗣 (電機)
鬼塚 利行 (Ⅳ)	小泉 幹夫 (Ⅴ)	手塚 辰保 (Ⅵ)	池谷 友仁 (Ⅷ)	片平 武史 (電機)
笠川 英樹 (Ⅳ)	小島 弘 (Ⅴ)	照井 與泰 (Ⅵ)	大塚 武 (Ⅷ)	山口芙未子 (電機)
金子 啓三 (Ⅳ)	小林 智 (Ⅴ)	徳江 雅宏 (Ⅵ)	鎌田 克 (Ⅷ)	加藤わかな (意建)
金澤 伸春 (Ⅳ)	近藤 清彦 (Ⅴ)	野口 章 (Ⅵ)	倉持 匠弘 (Ⅷ)	照井 丈大 (意建)
兼八 薫 (Ⅳ)	権田 通博 (Ⅴ)	野呂伊佐美 (Ⅵ)	佐々木 宏 (Ⅷ)	松井菜月希 (意建)
菊地 大介 (Ⅳ)	佐久間隆司 (Ⅴ)	林 努 (Ⅵ)	ポアジュンシェン (Ⅷ)	伊藤希美香 (総工)
岸田 勇 (Ⅳ)	境 祐司 (Ⅴ)	春田 昌宏 (Ⅵ)	妹尾 啓太 (Ⅸ)	石原 佳奈 (総工)
倉上 一郎 (Ⅳ)	澤野 守 (Ⅴ)	比良 文男 (Ⅵ)	中島雄一郎 (Ⅸ)	片野 寛之 (総工)
小坂橋 徹 (Ⅳ)	三枝 起夫 (Ⅴ)	福田 信 (Ⅵ)	西岡 潤二 (Ⅸ)	小太刀寛知 (総工)
今野 修 (Ⅳ)	善場 研也 (Ⅴ)	藤崎 滋 (Ⅵ)	柳 昭男 (Ⅸ)	越川 璃久 (総工)
坂原 義夫 (Ⅳ)	田中 聖之 (Ⅴ)	的場 峻 (Ⅵ)	安藤 幸次 (Ⅹ)	坂本 康輔 (総工)
篠崎 國雄 (Ⅳ)	高澤 祐 (Ⅴ)	村上 隆 (Ⅵ)	秋元 文江 (Ⅹ)	笹村 悠真 (総工)
柴 忠敏 (Ⅳ)	高月 健一 (Ⅴ)	百瀬 道夫 (Ⅵ)	飯盛 美希 (Ⅹ)	永井 果歩 (総工)
杉山 俊 (Ⅳ)	高橋比等良 (Ⅴ)	柳沢 栄二 (Ⅵ)	岩井 玲子 (Ⅹ)	馬場 真広 (総工)
鈴木 郁夫 (Ⅳ)	滝川 裕幸 (Ⅴ)	山田 義彦 (Ⅵ)	江田 隆正 (Ⅹ)	
鈴木 千春 (Ⅳ)	竹田 和俊 (Ⅴ)	山田 信之 (Ⅵ)	尾崎 誠 (Ⅹ)	
鈴木 孝志 (Ⅳ)	武内 芳夫 (Ⅴ)	山高 修一 (Ⅵ)	大木 登 (Ⅹ)	
相馬 毅 (Ⅳ)	橘 宗昭 (Ⅴ)	渡辺 幸保 (Ⅵ)	片野 正彦 (Ⅹ)	

100周年記念事業寄附者一覧

令和4年4月1日～令和5年3月31日

※お名前のみ掲載しております。

※振込用紙のお名前の公表の有無について未記入の方のお名前は掲載しておりません。予めご了承ください。

■ 100口 ■

日本ビューワークス株式会社

■ 300口 ■

五十嵐 實

■ 200口 ■

石田 稔

■ 100口 ■

中村 雅勇

深田 功

松谷 貫司

久保田将嗣

稲垣 利幸

■ 50口 ■

中澤 淳

■ 30口 ■

関 実

尹 好晃

加藤 洋一

■ 22口 ■

山岸 祐二

■ 20口 ■

井本 一彦

■ 18口 ■

高橋 八朗

■ 12口 ■

白石 拓也

■ 10口 ■

山田 琢磨

椎名 國雄

酒井 靖

戸崎 祐美

山崎 主雄

西 國雄

畔上 榮輔

長谷川静史

児玉 萬平

天野 譯溥

佐久間隆司

上田 卓是

菅原 勝寿

伊東 和美

本忠 瑞穂

笹川 俊勝

竹田 和俊

安斉 孝之

岡田歩久登

平田 和弘

深石 準

木村 好雄

津下 豊彦

原嶋 克巳

松本 栄一

阿部 賢一

三国 政勝

小林 力

古作 康幸

藤田 秀一

白井 善一

中島 將好

河村 信夫

大角 忠

白鳥 邦治

甲斐 茂

石川 清

大滝 正道

村田 実

田久保博之

藤森 博

未光 裕治

小川 泰治

岩下 博樹

伊藤 和夫

前原 信達

椎名 國雄

荒牧 哲

佐藤 正

重光 史郎

飯盛 美希

野村 隆浩

高山 瑞貴

中島 昭博

植草 敬一

原 賢治

福田 康夫

石川 天乃

大宮 秀一

成毛喜一郎

松本 和浩

大塚 康信

■ 5口 ■

土屋 宜司

木塚 大貴

森田 良知

山田 憲司

中川 邦夫

馬場 和幸

栗原 徳郎

金澤 健蔵

村松 健敏

川田 暢子

山根 悟

川口 晃平

大井 宏友

増田 正巳

若松 永

■ 13口 ■

【建築】村上雅也先生を囲むOB懇親会2022

■ 3口 ■

金木 真人

石本 亮治

永田 朗

塚本 允孜

地引 勝

野口 尚孝

石丸 貞冬

久世 茂樹

近藤 尚子

山田 秀夫

■ 2口 ■

小内 朝子

物井 恵一

江田 隆正

池谷 友仁

田口 裕一

萩原 繁寿

柳井 滋

米田 喬

吉川 武志

渡邊 豊

金 貴大

川添 集朗

瀬戸 守

富沢 隆史

百瀬 道夫

阿部 隆廣

今田 伸司

下村 孝

齊藤 裕之

尾上 孝一

■ 1.5口 ■

中嶋 義雄

■ 1口 ■

鎌田 克

榎 一光

清水 俊樹

菅原 勝彦

権田 通博

田村 健

大木 剛夫

工学部改組とこれに伴う同窓会部会の対応について

平成29年度工学部改組による新コース名と対応する各部会、ならびに旧学科の対応関係は以下の通りです。

新コース名称	対応部会	対応する旧学科
建築学コース	第II部会	木材・建築・デザイン工学科建築系
都市環境システムコース	第X部会	都市環境システム
デザインコース	第I部会	図案・彫刻・造形・意匠・デザイン工学科意匠系
機械工学コース	第III部会	金属・精機・機械・機械第二・電子機械工学科機械系
医工学コース	第XI部会	メディカルシステム
電気電子工学コース	第IV部会	電気・電子・電気電子・電子機械工学科電気電子系
物質科学コース	第XII部会	ナノサイエンス
情報工学コース	第VI, VII部会 第VIII部会	写真・印刷・画像・画像応用・情報画像工学科画像系・画像科学 情報・情報画像工学科情報系・情報画像学科
共生応用化学コース	第V, IX部会	工業化学・合成化学・応用化学・機能材料工学・物質工学

工学部創立100周年記念事業について

■工学部創立100周年記念事業の経緯

千葉大学工学部の前身は、1921（大正10）年12月に、官立専門学校として東京市新芝町（現在の港区田町）に設けられた「東京高等工藝学校」です。よって、2021（令和3）年には工学部は創立100周年を迎えたこととなります。

工学部では工学同窓会と共同で、工学部創立100周年記念事業を計画しております。本来であれば、2021年度に各種記念事業の実施を計画しておりましたが、新型コロナウイルスの影響を考慮して2022年5月21日（土）の総会において、誰もが安心して会食を伴う記念式典、記念祝賀会に出席できるようになるまで、延期することを決定いたしました。現状の見込みでは、2024年12月7日（土）または同月14日（土）に記念式典、記念祝賀会が開催できれば、と考えております。記念事業の延期に伴い、寄附金の募集も引き続き実施いたします。現時点（2023年9月末）までに、約1,743万円のご支援をいただいておりますが、目標額（3,000万円）の約58%に留まっており、依然として目標額の達成が困難な状況です。1万円以上抛金いただいた方には、「千葉大学工学部100年史」を進呈いたします。さらなるご支援をいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

100周年記念事業の大きな柱である「千葉大学工学部100年史」の発行は、記念式典、記念祝賀会などの事業についての実行記録を含めて完成させる予定でしたが、この計画は大きく変更を迫られました。また、編集作業もコロナ禍により、編集委員会の開催もままならず、大幅に遅れています。多くの執筆者の方々には絶大なご協力をいただいておりますが、年史に必要な正確な年月の特定について、大学内に分散している資料を探すことに手間取り、順調な編集作業とは言えません。皆さまには事情ご賢察の上、今しばらく発行をお待ちいただけますよう、ご理解いただければ幸いです。

今後とも編集作業を早めるよう、一層努力して参りますが、古い写真資料が不足しています。皆さまのお手元に歴史を物語る写真や資料などがありましたら、同窓会事務局か100年史編集委員会宛にお送りいただければ大変ありがたく存じます。

工学部創立100周年事業の具体的な内容につきましては、今後も引き続き本誌を通じて、同窓会員の皆さまにお知らせいたします。

（100周年記念事業実行委員会委員長 小坏 成一）

■工学部創立100周年記念事業「趣意書」

千葉大学工学部の前身校「東京高等工藝学校」は、1921（大正10）年12月に官立専門学校として東京市新芝町（現在の東京都港区田町）に創立されました。その後1944（昭和19）年に「東京工業専門学校」と改称され、終戦後1949（昭和24）年5月には、学制改革として公布された国立大学設置法により生まれた新制「千葉大学工芸学部」の母体となりました。翌年、千葉大学「工芸学部」は「工学部」と改称され、今日に至っています。

2021（令和3）年に創立100周年を迎えたこととなりますが、新型コロナウイルス感染症のため、下記のように計画していました記念事業、100年史出版はともに延期します。記念事業は、飲食を伴う記念祝賀会が安心して開催できるようになるまで延期し、100年史は2024年4月以降の出版を予定しています。何卒ご了承願います。

1. 「千葉大学工学部100年史」（仮称）の発行
2. 記念碑・銘板の設置
3. 記念講演会、記念祝賀会の開催
4. 学生・教職員の教育研究支援ならびに工学部設備の充実

以上事業の目的は、「創立100周年を記念して、本学工学部の100年にわたる歴史を振り返り、その業績を顕彰して後世に引き継ぐとともに、工学部の教育研究活動を支援すること」です。寄附金目標は3,000万円を予定しています。

なお、100周年記念事業の前倒しとして、「工学部松韻会館の改修費補助」の支出が行われています。この改修工事は、2016（平成28）年3月に完成し、リニューアルされた松韻会館は同年の工学同窓会報に掲載されています。

100周年記念事業の実行には皆さまのご賛同ご協力が必須です。工学部100周年を意義あるものとして歴史に刻むために、皆さまには何卒温かいご支援をいただけますようお願いいたします。

2023（令和5）年10月

千葉大学工学部創立100周年記念事業委員会委員長 （工学部長・工学同窓会名誉会長）	佐藤 之彦
工学同窓会会長	原 正樹
100周年記念事業実行委員会委員長	小坏 成一

千葉大学工学部創立100周年記念事業 ご寄附のお願い(再掲載)

「千葉大学工学部創立100周年記念事業」(前ページ)をご覧ください、趣旨にご賛同いただきまして、何卒ご寄附いただけますようお願いいたします。

■ 寄附金について

- ・個人 1口 1,000円
(2口以上ご寄附いただければ幸いです)
- ・法人 1口 10,000円
(10口以上ご寄附いただければ幸いです)

■ 寄附の方法

100周年記念事業への寄附は、「千葉大学SEEDS基金」を通して行います。ここに集まった皆様からの寄附金が、100周年記念事業の諸経費への支出に充てられます。この度、この方法を採用した理由は、「千葉大学SEEDS基金」への寄附は「所得控除」(右記※1を参照ください)が得られるためです。

寄附は、同封の「千葉大学SEEDS基金払込取扱票」を使用して、金融機関(※2)で振り込みください。これをもって100周年記念事業への寄附となります。

なお、SEEDS基金への寄附はクレジットカードを使用時の振り込みもできます。「千葉大学SEEDS基金」ホームページを使って、以下の手順で行ってください。この際、寄附金の用途を特定しないと100周年記念事業に使われないこととなりますのでご注意ください。

- (1) 「千葉大学SEEDS基金」にアクセス
- (2) トップページ中央下部「寄附する」をクリック
- (3) 「クレジットカードによるご寄附はこちら」をクリック
- (4) 寄附目的のプルダウンから「個別のプロジェクトへの支援」を選択
- (5) 支援先のプルダウンから「工学部100周年記念事業への支援」を選択

■ 寄附の特典

- ・個人で10口(10,000円)以上ご寄附いただいた方には「工学部100年史」(仮称)を贈呈します。
- ・個人で100口(100,000円)以上ご寄附いただいた方、

ならびに法人で50口(500,000円)以上ご寄附いただいた場合は、本学内に設置の銘版にご芳名を掲げます。

※1【寄附金に対する所得控除(免税措置)】

「千葉大学SEEDS基金」への2,000円を越える寄附金は、確定申告をすることで、寄附金額から2,000円を差し引いた額が、総所得から控除されます。送金後に大学から領収書が送られますので、確定申告の際にご利用ください。お住まいの都道府県・市町村によっては、所得税のほか住民税の「税額控除」が受けられます。当該の都道府県・市町村にお問い合わせください。

なお法人の場合の寄附金は、全額損金算入が可能です。

※2 次の金融機関では払込(振込)手数料が無料になります。郵便局(ゆうちょ)、千葉銀行、千葉興業銀行、京葉銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行。

※3【個人情報の取り扱いについて】

寄附により取得した個人情報につきましては、本学からの領収書とお礼状の送付、寄附者の顕彰に関する業務のほか、本学から寄附者にご連絡する必要がある場合のみに利用します。

【お問い合わせ先】

千葉大学工学部同窓会事務局内

「千葉大学工学部創立100周年記念事業実行委員会」

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL 043-254-6358 (月水金10:30~17:30)

E-Mail: chiba-u.kougakudosokai@nifty.com

URL: <http://chiba-kougaku-dosokai.jp>

総会・懇親会のご案内

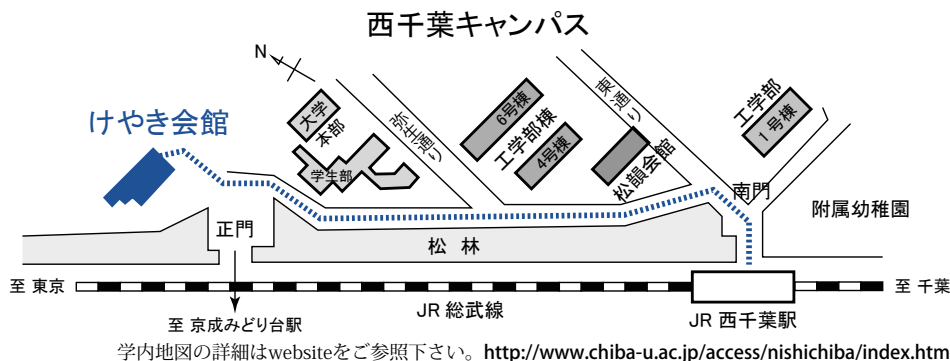
2024年度工学同窓会の総会および懇親会を下記の通り開催いたします。皆様お誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 日時** 2024年6月1日(土曜日) 受付 13:30より 総会 14:00~14:40
懇親会 15:00~17:00
- 会場** (受付) けやき会館・1階ホール (総会) けやき会館・1階大ホール
(懇親会) 生協食堂 (懇親会からご参加の方も、まずはけやき会館・1階ホールにお越しください。当日、ご案内します。)
- 会費** 2,000円(当日受付にて)

出席のお申し込みは、同封はがきにて2024年5月1日(水)までに事務局まで必着するようにお願いします。

※状況によって、総会・懇親会を延期または中止する場合があります。



会費納入とご寄附のお願い

●年会費納入のお願い

平成5年度の総会で会則が改正され、平成6年度より、特別会員(同校、同学部現旧教官、ただし正会員を除く)以外の正会員ならびに会友の皆様へ、年会費1,000円を納入していただくことになっております。諸般の事情をご理解下さり、会費をご納入下さいます様、何卒、お願い申し上げます。

年会費は 1,000円です。

●ご寄附のお願い

工学同窓会の運営が安定的に行えますよう、会費に併せまして、皆様からのご寄附をいただければ幸いです。ホームページの充実、工学部資料室設置への協力など、毎年の運営費以外の事業費に充てられればと思います。

●年会費およびご寄附のご送金は

両方とも、同封いたしました郵便振替用紙にてお願いいたします。
なお毎年この振込用紙が同封されますが、すでに本年度分の年会費を前納されている方は必要ありません。

事務局からのお知らせ —— おたより募集と住所等変更連絡のお願い

●会員の皆様からのおたよりを募集しています。

同窓生の皆様のための会報とするため、編集委員会では、会員の皆様からのおたよりを随時募集しております。同期会の報告や、皆様の近況、お仕事ぶりなどのお便りを、是非、事務局までお寄せ下さい。誌面の許す限り、掲載させていただきたいと思っております。

●住所、勤務先、電話番号などが変わられた方はお手数ですが、同封のはがき、ホームページ上またはFAXで、同窓会事務局までご一報下さい。

●当同窓会では、会員名簿の管理、発行は(株)サラトに委託しております。最近、(株)サラト以外の業者からも、名簿刊行の案内がありますが、これは当会とは一切関係ありませんので、ご注意ください。

会報編集委員：下村義弘、島田侑子(委員長)、中田敏是、大森達也、榎飛雄馬、難波一輝、劉ウエン、平田慎之介、柴 史之

発行 千葉大学工学同窓会 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学工学部松韻会館内
電話/FAX 043-254-6358 (月水金 10時30分~17時30分)
E-mail: chiba-u.kogakudosokai@nifty.com

印刷 株式会社サラト 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172番地 電話 079-284-1380 FAX 079-224-7746